

## 原子カムの境界を越えるためのコミュニケーション・フィールドの試行

### 第2回業務推進全体会合

#### 逐語録

(木村<sub>浩</sub>) 時間になりましたので、第2回業務推進全体会合を始めたいと思います。よろしくお願いいたします。

まず資料の確認をしていきたいと思います。まず議事次第(2-0)があります。次に、平成24年度のメンバー一覧があります(2-1)。次に、第1回業務推進全体会合の議事録(案)があります(2-2)。次に、第2回社会調査コアグループ会合議事メモです(2-3)。次に、第2回フォーラム検討会議の議事録(案)があります(2-4)。次に、第3回フォーラム検討会議議事録(案)があります。こちらは未完成と書いてありますが、2-5としてください。次に、第6回のエネルギーと原子力に関するアンケート、冊子になっているものです(2-6)。次から3枚が似たような資料になりますので、右上のボックスを見てください。ver.1123と書いてあるのが2-7です。ver.1205が2-8。ver.1205EXが2-9になります。最後に、フォーラムに関する議論の整理があります(2-10)。過不足ございませんでしょうか。

まず議事に入る前に、2-1の資料ですが、メンバー一覧を示しました。全体会合には31番までのメンバーが関わることになっています。所属も簡単にですが書いてございますので、ご確認いただければと思います。なお、連絡先は、この資料には伏せたのですが、もし問題なければ出してもいいかなと思っていますが、どうでしょうか。

よろしいでしょうか。では、このメンバーで、メールアドレスも共有していこうと思います。そのほうが連絡もしやすいので。

それでは、早速議事に入っていきたいと思います。

今日の議事ですが、議事録等確認、社会調査グループの進捗報告、フォーラム検討グループの進捗報告があるということになります。

#### 1. 議事録等確認

(木村<sub>浩</sub>) 最初に議事録等確認です。議事録がたくさんありますが、ここでは、業務推進全体会合の議事録だけ確認したいと思います。その他の議事メモや議事録は、それぞれの担当のときにご説明いただこうと思います。

第1回の業務推進全体会合の議事録(案)ですが、すでにメールでお配りしておりますが、1件修正がありました。その他、特にございませんでしたので、その修正を反映したものを今回お配りしております。そのときに逐語録もメールでお配りしていると思います。

これは各自でメールのほうで確認をしていただければと思います。

特にご指摘がございませんでしたら、前回の復習ということで、少し必要なところをご説明していきたいと思います。

2 ページ目ですが、まず本業務の概要を説明したということです。本業務の名前は「原子カムラ」の境界を越えるためのコミュニケーション・フィールドの試行」ということになりまして、基本的には社会調査という部分と、コミュニケーション・フィールド（フォーラム）、その2つが関わるような研究となっております。これについて簡単にご説明をして、質疑応答をしたということが1番目です。

2番目として、社会調査グループの進捗報告がなされたということになります。いろいろ議論はありますが、この議論を受けて、さらにコアグループ検討をして、調査票の案が出てきていますので、そちらをご参照いただければと思います。長いですので、読み上げるのは省略をさせていただければと思います。

3番目です。フォーラム検討グループの進捗報告がございました。フォーラムを検討するにあたって、既往のコミュニケーション・フィールドにはどういうものがあるかということ、竹中君から紹介をいただいて、ディスカッションをしたということになります。竹中君の話の中で出てきた、コミュニケーション・フィールド設計のときの考え方に則って、少しフォーラムの考え方を整理していますので、そちらのほうでまた同じような話題が出てくると思います。

ということで、大きくは全体の業務概要の説明と、社会調査グループの進捗と、フォーラム検討グループの進捗があったということでした。内容に関しては、また細かく見ていただければと思います。

何か今の時点でご指摘の点があれば、お受けしたいと思います。いかがでしょうか。もしお気づきの点がありましたら、いつでもご指摘ください。では、議事録等確認に関してはここまでにしたいと思います。

## 2. 社会調査グループ進捗報告

(木村 浩) それでは2番目の議事、社会調査グループの進捗報告ということで、土田先生に報告をいただいて、ディスカッションとさせていただければと思います。よろしくお願ひします。

(土田) 11月23日に、関西に集まっただいて、アンケートの検討を行いました。ほぼ、アンケート案が固まったという形になります。それが資料2-6になります。まずは2-6に関して少しご議論いただければと思いますので、2-6をお手元にご用意ください。

実施は輿論科学協会に委託するというようにしてあります。これまでも同様の調査を行

なってきた、今回で第6回になります。

ページをめくっていただくと、Q1、Q2、それから番号は入れ替えていますので飛びますけれども、Q20、Q21という順番でいきます。

Q1が関心、Q2が不安です。原子力の関心、不安が、他のものと比べてどのあたりにあるかということが、ここで分かる。それから、調査テクニク的な話になるのですが、これが導入部分、つかみなどと言いますが、調査にスムーズに入ってもらうための質問になります。

3ページ目のQ20、信頼を形成する要因になります。確か、この質問は、昨年度からですよ。

(木村<sup>浩</sup>) ずっと入っていて、いつもこの順番なので、ここに戻しています(昨年度だけ場所を変えた)。

(土田) そういうことでした。上が、いわゆる民間会社、下が公共機関という形で、同じ設問なのですからけれども、対象が違うという形で聞いています。ざっと全体を把握していただきたいので、最後まで通して説明させてください。

4ページ目は、原子力発電についての考えです。変わったところがQ14の赤字のところ、経済発展できると思うかどうかということです。その他は継続です。

5ページ目ですが、これも原子力発電に関する考えなのですからけれども、少し価値観等の入った考えというのを、これも毎年聞いているものをそのままもってきています。毎年聞いていても、もうこれは要らないだろうという項目は外してあります。特に震災のあった昨年度に、直後という意味で聞いて、今年是要らないからという形で外したものもあります。

6ページ目ですが、昨年度は事故に関連した設問だったわけですが、1年経ちましたので、かなり変えましたし、新たな質問も入れました。赤いところだけ少し読み上げさせていただきます。ウ) 今後、原子力発電の安全を確保することは可能であると思う、という形で、安全が確保できるかという認識です。ク) 私は、個人的には原子力発電が嫌いである、という好き嫌いの項目。ケ) 福島第一原発で作業員が被ばくしていることは深刻な問題だ。作業員被ばくに対する評価。コ) 作業員の被ばくを適切に管理されていない。これも作業員被ばくの問題です。サ) 自分のところで被災地瓦礫を受け入れて処理してもかまわない、という形で、これは被災地瓦礫の問題です。シ) 福島県の除染廃棄物を自分のところで処分してもかまわない。一般の人に聞くと、被災地瓦礫と除染廃棄物の見分けのつかない人もいて、混乱する人もいるかもしれないのですが、見分けがつくという前提で、この設問にしてあります。ス) 原子力発電所はひとつも再稼働すべきでない、という設問を一応おいています。

7ページですが、これは前回は議論になったわけですが、20年後の原子力の割合という形で毎年聞いているものなので、経年変化を見るという意味でも、いつもと同じように

おかせていただきました。

8 ページ目ですが、放射能、放射線に関しての考え方です。昨年度新たに入れたわけなのですが、特に除染のことと風評被害に関すること、サ) とシ) を入れました。サ) 福島県の除染は順調に進んでいる。シ) 福島県産のお米や魚など農海産物は安全だと思う。という形で、どれくらいの認知が上がってくるか。もちろんこれは議論のあるところで、逆転項目にして、進んでいないと聞いてもいいし、安全ではないと思うと聞いてもいいのですが、福島県の関係者の人もいらっしゃると思いますので、あまり波風立てないようにということで、この形にしてあります。

9 ページ目、原子力規制委員会が新しくできたわけですが、これも一般も方がこのことがわかっているという前提でお聞きします。新たな項目です。一応読み上げます。ア) 原子力発電所の運転が安全に行われているかの監視、を期待する。イ) 事故やトラブル時の分析や評価、を期待する。ウ) 電力会社に対して強く指導力を発揮すること。ケ) 長期的な事故対策。コ) 適切な規制を作ること。オ) 原子力推進に対する抑止力。エ) 中立な第三者機関としての立場。カ) 原子力技術に関する知識の集約。キ) 正確なデータの発信。ク) 知識普及・啓蒙活動。ケ) 海外の規制機関と連携すること・国際化。サ) 原子力安全・規制に係わる人材の育成。

昨年度この調査に関わった方はもうお気づきのことと思いますが、昨年度はこれを日本原子力学会に期待すること、という形で、同じような項目を発しています。今年は原子力学会ではなくて、規制委員会にしました。学会ではありませんので、学会でしか通用しないような項目は除いてあって、規制委員会のための項目を新たに付け加えたということですが、大部分は原子力学会に対して聞いたことと同じような内容です。

10 ページ目ですが、原子力に携わっている人たちや組織についてお伺いします。これは我々のテーマからすれば、「原子カムラ」について、と言うとすっきりくるのですが、「原子カムラ」という言葉は一般的に通用する言葉ともいえないという観点から、こういう言葉にしています。これも一応読み上げます。1. 私は、原子力発電に携わっている人たちに好感を持っている。2. 原子力に携わっている人たちの価値観や考え方は、一般の人たちとはずれていると思う。3. 原子力に携わっている人たちは権力志向だ。4. 原子力に携わっている人たちは自分たちだけ利益を得ている。5. 原子力に携わっている人たちは自由に意見が述べられないのだと思う。6. 原子力を推進する人たちではなく、組織に問題があるのだと思う。7. そもそも原子力は道徳的に問題がある。8. 特に印象は持っていない。9. その他。という形です。

11 ページでフェイス項目という形で、性、年齢、学歴、職業を聞いて終わる。最後に、調査全体に対する自由記述のメッセージがあります。

では、順番にご意見をお願いいたします。まず 2 ページ目の Q1 なのですが、これに関して何かご意見ありませんでしょうか。特に項目で、これは要らないのではないかと、これが

今関心もたれていることではないか、だから付け足したほうがいい、というような項目はありませんか。よろしいですか。

次に不安に感じるものということで、項目は Q1 とまったく同じです。この中から不安に感じるものをいくつでもいいから丸をつけてもらうという形になります。いかがでしょうか。

—— 不安に感じる項目で、趣味や娯楽というのは変ではないですか。

(土田) そうですね。まあ、何でもネガティブな面があるということなのですが、技術的には、関心と同じものを聞くために無理やりおいたということで、あまりにも不自然だということであれば、外すことはやぶさかではありません。

—— 確かに不自然なのですが、できれば数を同じに揃えたくて。どのくらい丸をつけるかということが大事なのですよ。

—— 項目 22 番の「その他」は、その人が好きなように書いていいということですね。

(土田) そういうことです。

—— 「原子力」と「原子力施設の事故」を分けた意図は何ですか。

(土田) やはり原子力学会の調査ということが反映します。原子力と事故は別物だと認識する人が、原子力学会には多いのです。だから、一般には受け入れられないかもしれません。

—— そういう意味では、「政治や経済」というのは幅が広すぎるのですよね。「原子力施設の事故」と「原子力」と「資源やエネルギー」を分けるのであれば、「政治や経済」というのは、あまりにも括りが広いなという感じがします。

(土田) どうでしょうか。

—— 何年か前は、「政治」と「経済」は分けていたのです。それを、選択肢を減らす観点で 1 つにしたのですね。ご指摘の通りで、政治と経済のどちらに興味があるか分からないし、中身が分からないのですが。

—— 経済の中でも、いわゆる景気なのか、雇用の問題なのか。そこをどう考えたらいい

のかなと。

—— おっしゃる通りです。この前もお話しましたが、選択肢はある程度減らしたいのですね。でも、中身は知りたい。この調査の目的は、政治や経済のどういう観点に興味があるかというのは、詳細に分析すれば関係はあると思うんですが、とりあえずは「政治や経済」という括りで書いてあります。そういう観点です。

(土田) つまり、知りたいのは原子力関係の事柄だけなのですね。それが他のものと比較して、どこに位置づけられるかということを知りたいので、別に政治と経済のどちらが不安か、どちらに関心があるかということを知りたいわけではなくて、いわゆる「政治経済」というものと「原子力」を比べたときに、どちらに丸がつくかということなのです。

ですから、政治経済のことを言うならばおっしゃるとおり、雇用の問題とか、年金の問題とか、ブラック企業の問題とか、いくらでも書けるのですけれども、こちらが聞きたいことは、原子力に関係することだけです。本音のところは。

—— ちなみに、震災前は原子力への不安や関心はかなり低かったのですね。震災後は、「病气」などと同じレベルのところについていますので、かなり大きく変わっています。今年はどうなるか、興味深いです。

(土田) あと、事故前の穏やかだったときに最初に組み立てられた設問ですので、今から考えると、言葉は悪いですが能天気な質問になっているところもあるのですが、経年変化も見たいところもありますので、あまり大きくはいじりたくないというのが本音です。

—— 私は経年変化は非常に大事だと思うのですね。だから、長期的な観点で見たときには、あまり変えないほうがいいのだろうと。それには賛成です。

(土田) それでも、1、2個ぐらいは追加しても分析はできると思うので、ぜひこれは必要だという項目があれば、ご提案いただけるとありがたいのですが。

趣味や娯楽は削りましょうか。

—— 削るのであれば、不安と関心の両方から削ったほうがいいと思います。

—— だけど、ひとつ面白いと思うのは、社会的なこと、世の中のことに興味があるのか、非常に個人的なことにしか興味がないのか、その分かれ方は、「趣味や娯楽」という1項目でかなり出てくるのではないかなと。やはり入れたほうがいいのではないかと個人的には思います。

—— 鋭いご指摘ですね。今まではそういう観点で分析はしていなかったもので。

(土田) どうでしょうか。項目 20、21 の代わりに、別の項目を入れますか。

—— 要検討で、もっといい項目があったら入れるということにしましょうか。

(土田) 例えば年金とか、増税とか、今話題になっている問題はいくらでもあるのですけれども。

(木村<sup>浩</sup>) 日本で関心というと、不安と相関が高くなるのですね。私はずっと相関を見ているのですが、7割くらい相関するのです。でも、項目 20、21 は相関がほぼゼロです。そういう意味では、ちゃんと考えて回答しているなということをチェックする項目としては機能しているのですけどね。

(土田) 考え方は2つあります。

Q1、2 もまともにデータとして活用するという考え方。

それから、場合によっては、調査に熱心に取り組んでもらうための導入部分だと割り切れば、導入しやすいような不自然でない設問を作るという考え方も実はあります。ただ、そうすると経年変化は駄目になる。いろいろなものを全部成り立たせるのは無理ですが、何を取るかによるのですが。

—— 「普段の生活」と書いてあるのに、「戦争やテロ」という項目がありますよね。毎日の生活で、そこまで考えるか。質問の書き方が、「日本に関して心配があること」だったら、丸をつけるかもしれないですけれども、普段の生活というと、例えば私たちみたいにエネルギーを考えている人は「エネルギー」を考えるのですけど、お母様方だったら、例えば子どものこととかだと思うので、「その他」のところに入ってくるのかなと思うのですけど。でもこれは、経年変化を見たいということですよ。いつか機会があったときに、また変えるとかでもいいと思うのですけども。

(土田) これは引き取らせてください。引き取って、やはりこれでいくということになるかもしれませんが。

—— 実はこういう設問を作って、「その他」に多く丸がつくのは、作った人間が失格なのですよ。今のままだと「その他」に入ってしまうけど、個別に項目として明記したほうがいいものがあったら、教えてください。

それから、例えば仮に「戦争」は丸が少なくても、少ないからこの項目から外すという考え方と、少ないの確認するという考え方の 2 つがあって、丸がつかないから入れるか入れないかは、また私たちが相談させてください。

(土田) 次です。Q20、21 に関しては、毎年やってきたものですので、いいのではないかと思います。議論するとすれば、この設問全体が要るか、要らないかだと思います。よろしいですか。

4 ページですが、Q10 で原子力発電に関心がありますかということ、ここで改めてダメ押しで聞いています。Q11 が利用すべきか、やめるべきかどうか。Q12 が原子力発電が有用か、無用か。Q13 が安心か、不安か。これでも分かるとおおり、Q1、2 で測定に失敗しても、ここで正確に測定できる、ということです。

そして、Q14 で、原子力と経済の関係について聞きたいということになります。何かご意見ありませんでしょうか。

(木村<sub>浩</sub>) 補足ですけれど、Q14 の場所は、昨年度は「東日本大震災が起こる前に、福島第一原子力発電所の事故のような事故が起こると思っていましたか、それとも思いませんでしたか」という質問でした。

その前は、「あなたは、日本で今後 100 年の間に、原子力発電施設から放射性物質が敷地外に漏れて、一般の人びとが死亡するような事故が起こると思いますか、それとも起こらないと思いますか」という質問でした。

それに戻すという議論もあったのですが、新しいのにしようということで変えたということになります。

(土田) これは、総選挙の後で調査が走りますので、おそらく総選挙の論点としてもそうだし、勝った政党の政策についての解説のニュース、ワイドショーなども見る人が多いと思いますので、そういったところから知恵を受けて、それが反映した結果になると思います。よろしいですか。

では、Q15 ですが、これは昨年度と同じです。かなり詳しい設問なので、一般の方が見ただけで、もうこんな調査は嫌だと言いだす人もいかなないところなのですが、いかがですか。一応、昨年度もこれで調査が成り立っていましたので、何とか答えてくれるのではないかと思いますけれども。

(木村<sub>浩</sub>) 無回答率はそれほど高くないです。「わからない・しらない」は結構います。

—— 福島前後で、「わからない・しらない」が減ったという傾向はありましたよね。



(木村<sub>浩</sub>) ここは経年なので、いいのではないですか。

(土田) では問題の 6 ページにまいります。特に赤字のところを中心にご議論いただければと思います。いかがでしょうか。もうここはワーディング（言葉遣い）も含めて、ご意見をいただければと思います。

—— サ) とシ) の「自分のところ」というのは変なのではないかと。「自分のところ」というと、自分の住んでいる県レベルだったり、市や町レベルだったり、イメージする像が違ってくるので。

(土田) そうなのです。そこはあえてぼんやりと聞いています。

—— 「自分のところ」というのを県で捉える人もいるし、市町村で捉える人もいるし、それを限定しないという方法もあるのです。

(土田) つまり、自分の町内会だけで、他の町内会はどうでもいいやと思っている人は、自分の県に来るといってもどうとも思わないかもしれない。でも、千代田区とか 23 区内を自分のところだと思っている人は、駄目だ、となる。とにかく自分に関わり合いがあるところと認識したところに、ということで、ぼんやりと聞いています。

—— 調査を見る側からすると、数字からは「自分のところ」がどこか分からないと思うのですが。

(土田) 「自分のところ」がどこを示しているかはわからない。けれども、自分のテリトリーだと思っているところに来ることを拒んでいる人がこのくらいいる、という結果は分かる。

—— 分かりました。

—— ご指摘はごもっともで、本当の近所、と限定するやり方もあるのだけど、今回はこういうやり方をしていますので。

(土田) 社会学的に言うと、自分の所属集団がどのくらいか、ということなのですね。福島にいる人だと、もう福島県全体が自分のところと思っているかもしれないし。そういうことです。

—— ワーディングになるかもしれないですけど、ク)で「個人的には」という単語を入れるのは、何か意味があるのですか。「私は原子力が嫌いである」では駄目なのですか。

(土田) それが一番シンプルなのですが、立場上嫌いだと言えない人もいるかなと思ひまして。学会員向け調査も同じワーディングで行きますので、学会員は「個人的には」を入れておかないと混乱するだろうということで、そういう理由です。

—— サ)に「被災地瓦礫」という言葉が出てきますよね。この被災地瓦礫というのは、必ずしも福島で除染された対象物ではないということですよ。

(土田) そういうことです。宮古で出たものとか。

—— そういうことですよ。ただ、サ)の前の項目は、全て福島や原子力の話なのですよ。ここだけ違う。

(土田) そうですね。「被災地瓦礫」の前に、説明が要りますね。東日本大震災で、

—— 福島に限定しない、ということですね。

(土田) はい、ありがとうございます。ここは、被災地瓦礫の前に説明を入れます。

—— 放射能に関係ないとか、そういう言葉ですか。

(土田) ではなくて、「津波で襲われた地域の」とか。

—— それでも反対な人も結構いますので。

(土田) そうですよ。それでもというか、福島と全然関係ないところのものでも、皆反対の大合唱ですよ。風評被害なのですから。

—— キ)で、推進という言葉を使っていて、前のページの Q13 では利用と書かれているのですけれども、利用と推進の意味が違う、という理解でよろしいですか。

(土田) ええ。利用は、現状維持でも利用であって。推進というのは、増やしていくという意味合いが強くなっていきます。

—— ケ) で原発という言葉がありますが、他は全部、原子力発電所と書いていますよね。

(土田) 略さないほうがいいですか。では、略さないでいきます。

—— コ) 作業員の被ばくを適切に管理されていない、というのは日本語として少し変ではないですか。「を」という助詞が気になるのですけど。

(土田) そうですかね。「が」にします。

(木村<sub>浩</sub>) 「は」。

—— 「は」にすると、or みたいなイメージが出る。

(土田) 「作業員の被ばくは」となると、作業員でない人の場合は適切に管理されているというニュアンスが強いですね。

—— よろしいですか。少し上のところから議論を始めますね。フォーラムで「市民」と「ムラびと」との認識の差が出てきたら、それだけで意味があるというお話ですが、その典型になるのが、この瓦礫と廃棄物の問題であると思っています。なおかつ、先ほど風評被害とおっしゃいましたが、市民は相当誤解をしているのですよ。

だとすると、そこまで仮説があるなら、それが明らかになるようなワーディングが必要なのかなと思っています。被災地瓦礫という言葉の定義。あとは、除染廃棄物って、何ですかと。4号機のコンクリートはここに入るのですか。市民はそう思ってしまったりする。つまりここは、汚染の度合い、もしくは除染の廃棄物というのは何なのか、特定するような形で聞くのか、もしくは誤解を許容する形で聞くのかは、後々のフォーラムで、「ああ、一般市民はこういうことが分かっていたのですね」ということをハイライトするのに、決定的に重要になると思うのです。

さらに言うと、基本的に「ムラびと」と「市民」は緊張感がある中での話し合いになると思いますが、でも共通の土台で話し合いができるとしたら、やはり「廃棄物」についてはどうかと。除染廃棄物から、直接処分を含めての使用済み核燃料の廃棄物の問題まで、絶対に共有している。なぜかという、もう出てしまっているから。逃げられないよというところで共有している。

ですから、ここはもうひと工夫必要なのかなという気はしました。今、被災地瓦礫のほうはカバーできたので、除染廃棄物を何と聞こうかなと思ひまして。以上です。

(土田) 確かに、誤解を与えないようにするのはいいと思います。ただ、これはフォー

ラムの議論のときに申し上げますけれども、参加者を選ぶための質問が後で出てきますが、あまり質問数は増やせないで、Q24は選ぶための基準には使えないと思います。

—— ポイントは、除染廃棄物とは何なのかということ、サ)の被災地瓦礫に説明を入れるのなら、同様の処理が必要ではないでしょうかということです。

(土田) 確かに、「福島県の」といわれると、サイトの廃棄物も、論理的には入りますね。

—— そう読む人は必ず出ますから。

—— 私も「福島県の」という表現は、作っていて気になったのですが、どうでしょうか。

—— 飯舘村辺りの表土ということなのか、サイトのコンクリート瓦礫なのか。混ざっている。そういう意図ならいいのですが。

(土田) これは、それこそ飯舘村辺りの表土のことを念頭に作ってありますね。いわゆる中間貯蔵とか、あの話題を反対するかどうかということなので。

(木村<sub>浩</sub>) これはどうですか。読んで、分からなさそうですか。

—— 私としては、「福島県の」は要らない気がします。

(土田) そうですね。別に福島県以外から出ないわけでもなし。

—— 「福島第一原子力発電所以外の除染廃棄物」としたらいいのではないですか。

(土田) そういう言い方もできますね。今思ったのは、「一般住宅地から出た除染廃棄物」とか。そういう聞き方もあるかな。

—— 除染というより、汚染廃棄物。

(土田) 汚染廃棄物か。そうですね。

—— 法律的には、特定指定廃棄物とか言うのですけれども。

—— でも、そういう聞き方をしたら、市民は何のことか、分からないですよ。

—— いや、何と言っても分からないのですよ。

—— 除染廃棄物のほうが、まだ、取った表土ということが分かるけど、特定何とかと言われると、途端に何のことだか分からなくなる。

—— そう言うつもりはないのだけれども。除染というのは、一般に、例えば福島県以外だと、どんなイメージで除染した廃棄物という言葉を使いますか？

—— 汚染された表土を取ったもの。

(三田に) 表土を取るというのは、何ですか？

—— 削った土。

—— それと、清掃工場が出た、汚染された灰。

—— ああ、清掃工場ね。

—— あとは落ち葉。

—— むしろ、首都圏でよく話題になっているものですね。

—— 落ち葉は、すごく思う。

—— 首都圏で出てきたものは特に、除染という行為で出てきたというイメージが強いですよ。

(土田) 我々が念頭においたのは、除染作業によって出てきた放射性廃棄物。

—— そうでしょう。

—— そういう意識があるのだったら明確にしておかないと。

—— だから、同じなのですよ。ただ、それは言葉の問題だけなのです。

(土田) そうしますか。「除染作業によって出てきた放射性廃棄物」。放射性廃棄物を自分のところで処分していい、というのは、バイアスかけている感じがしますが。

—— 除染作業で出てきた放射性廃棄物というと、ちょっと。

(土田) 除染作業で出た廃棄物にしますか。放射性を除いて。

—— 一応公式には、除染廃棄物という言葉は使わないのですよ。「除染除去物」です。除染によって発生した除去物という言い方をします。

(土田) 廃棄物という言い方はしないのか。

—— これは、サ) とシ) で 2 問つけているのは、あえていえば、汚染されていない廃棄物と、汚染されている廃棄物を意識しているわけですが、もっと簡単に表現してしまえますか。

(土田) 低レベルではあるけれども、一応汚染されている廃棄物。

—— 汚染という言葉も通常は使いませんね。放射性物質を含むか、含まないかですね。放射性物質を含む除去物、放射性廃棄物を含まない瓦礫物、そういう言い方ですね。

—— それが一番明確かもしれない。

—— 「除染作業によって出てきたもの」。

—— ああ、そうそう。いいかもしれない。

—— 除染作業したけど、結果的には汚染物でなかったということも、ありえるわけですよ。

—— ありえますよ。

—— だけど、それも一応対象にするわけですよ。

—— ええと、それは…。

—— あまり細かく言い出すと、津波で押し流されてきた瓦礫で、福島のカシウムが落ちて、少しだけ汚れたもの、とかもあるから、それは置いておいて、除染作業によって発生した廃棄物でいいと思う。

(土田) 今まとめてみました。「除染作業によって出たものを、自分のところで処分してもかまわない」。

—— ワーディング以前に、除染除去物は、基本的に県外へ移動しませんよ。なぜこんな質問があるのか。これは、福島県内の人でないという意味がないのですよ。

—— いや、千葉県だって。

—— 自分のところで処理するのですよ。

(木村<sub>浩</sub>) 自分のところのイメージが、どのくらいかは違うのですよ。

—— そうそう。自分の庭なのか、自分の地域なのか。県なのかも分からない。

(土田) これは、実際には首都圏の住民に対しての調査ですけれども、ここで想定したときには、例えば鹿児島の方に持っていくというようなことを想定して、それが鹿児島ではなくて、自分のところにきたらという、そういう質問なのです。

—— 最終処分地の候補としては、福島県外になりましたよね。

(土田) そういうことなのです。中間は知事が飲んで、福島県内でいいということにして。

(木村<sub>浩</sub>) 「福島県の除染廃棄物」といったときの私のイメージとしては、福島県で今中間処理施設を作ろうとしていますけれども、30年後には福島県外に最終処分場を作って、そこで処分すると閣議決定されているわけですね。私の中では、それをイメージしていました。

「被災地瓦礫」というのは、放射性物質を含まないとかもありながら、それを他の県で受け入れると。東京都は確か受け入れを決定したわけですよ。

だけど、福島のそういう、中間貯蔵をやったような放射性物質を含む廃棄物は、東京で受け入れる気があるのでしょうか、というのは聞いてみたかったです。ただ、それを丁

寧に書くと難しいから、どうしようということで、えいや、と作ってしまったところがあります。

—— そういうことなら、「福島県」を入れないと駄目ではないですか。

(木村<sub>浩</sub>) だから、「福島県の」があったのです。それで、他のところは指定廃棄物で、各県のどこかに埋めるということになって、それもいろいろもめたりもめなかつたりしていますけれども。私の中ではそういう背景にあって、これを入れたということはありません。

ただ、福島県の除染の結果出てきた廃棄物は、いずれ他県に埋めることになるということを知らないと、これは書けないので、それはハードル高いかなとも、皆さんのお話を聞いて思っているところです。なので、「福島県の」を外して、「放射性物質が含まれている」ぐらいでやったほうがいいのかもしれませんが。ただ、そうすると、「自分のところで」感で、回答がぐらつくなというのはありますね。

—— この調査では、福島県は「自分のところ」ではないですよ。この調査は首都圏だから。そうすると、福島県に対する互助意識みたいなものを測ることになるから、「福島県の」をあえて入れたほうがいいかなという感じが、少ししてきたんですけど。

(土田) その意図なら、福島県の放射性物質の処分に関して、手助けをしたいとか、そういう質問になりますよね。

—— 質問の意図なのですからけれども、受け入れるかどうかを聞くと共に、おそらくサ) とシ) のばらつきを見たいということがあるのではないかと思っているのですが、それは大丈夫ですか。

(木村<sub>浩</sub>) これを作ったときはそうです。

—— そのときに、サ) の被災地瓦礫というのは、一般の人が読んだときに、放射性物質が入っているかどうかは、非常に分からないところなんですけど、そこはぼやかすのですか。

(木村<sub>浩</sub>) それは、明確にするという話になったのですよね。

(土田) ええと、明確にするというか、出所だけ明確にする。世の中の人は、岩手で出た瓦礫も、放射能で汚染されていると信じている人は結構いますから。



—— 出所？

—— 「津波によって出た瓦礫」とか。

—— 放射性物質が入っているか入っていないかを書くのではなく？

(土田) ではなくて、どこで出たか。

(木村<sub>浩</sub>) 何を比較するかにもよりますけれども、放射性物質を含んでいない瓦礫だったらいいけど、放射性物質を含んでいる瓦礫は嫌だとか、そういうのを見たければ、そういう対比で書いてもいいかもしれないですね。

—— その辺りを整理して、また決めましょう。

(土田) 場合によってはシ) を抜く、比較をしないという選択肢もありますね。

(木村<sub>浩</sub>) ご存知の範囲で教えていただければと思うのですがけれども、正確な言葉で言うとしたら、シ) の設問はどういう感じになりますか。

—— 「除染除去物」ですね。だけど、それは、「除染作業で出てきたもの」という言い方でもまったく違和感はありません。除染廃棄物とはあまり言わないですね。それから、汚染という言葉も使わないというか、避けています。

普通に考えれば、「放射性物質を含む何とか」「含まない何とか」という言い方でもいいかもしれません。

—— 「汚染」という言葉を避けるというのは、誰がどこで避けているのですか。

—— 当事者。だから、政府とか、電力会社は避けていますね。

—— 私たちが避けなければいけないという理由はないですよ。

—— 使っても構いません。要するに、住民感情を逆なでしたくないということですね。

(土田) あえて火中の栗を拾うことはない。

—— ス) で「ひとつも」とありますよね。今1つは稼働されているわけですが、「ひとつ

も」という表現でいいのでしょうか。

(木村<sup>浩</sup>) 私の中では違和感なかったですね。動いているけど、あれもとめるべきだ、ということですよ。

—— あれもとめるべきだ。そういう意味ならいいですね。全部とめろという意味ですね。

(土田) では、時間もありますので、よろしいですね。

7 ページは議論する必要もないかと思いますが。

—— 指摘事項が 2 つあります。「あなたのお考えをおうかがいします」となっている場合、予測なのか、プレファレンス（好み、優先傾向）なのかがはっきりしないなと思っています。

—— はい、それはずっと議論していることです。

—— これはどちらかに特定したほうがいいのではないかと。そうしないと、あとでどう議論するのですか、という話。

(土田) 我々の解ですが、経年変化を見るので、これはこれでいくと。それを分離するための設問を、別に設けると。

—— わかりました。

もうひとつ、これは伝統的に聞き方でこうなってしまうのかもしれませんが、今、「2030 年代の原発比率をどうしますか」というのは、人口開札する形で、散々言われている。ところが、この質問文は、一旦考えさせる言い方になっているのですね。今から 20 年後は、西暦でいうと 2032 年、そのときに、という翻訳段階を入れさせる。ここを、「2030 年代の比率」みたいにできないのでしょうか。前から言っているから仕方がないなら、仕方がないかなとは思いますが。

(土田) 仕方がないところです。あとは、2030 年というのを誰もが思い浮かべるわけでもない、という前提にも立っています。20 年後と聞いたときに、2030 年のことをストンと思わないで、単純に考える人もいるかもしれない。

—— これは調査の整合性ですから。ただ、答える人が、今少なくとも、2030 年代の、という前提のときに、嫌というほど、

(土田) おっしゃる通りで、20年後と聞いたら、多くの人は、「おお、2032年じゃないか」と。なら、こうなっているよなどと、よく分かっている人ほどそうやって考えるとは思いますが。ただ、世の中には、そういうこと何も関係なしにイメージで、これだ、という人も多いので。

—— まあ、経年だったら仕方がないと思います。

—— 福島事故の前からこの質問を設けていますので。

(土田) ご了承ください。

では、8ページですが、これは昨年度入れた設問なのですけれども、大部分は残す方針で、事故直後にしか意味がない質問を削りましたが、その代わりにサ)とシ)を入れています。

—— シ)に関して、私もよく分からないんですけど、農と海、一まとまりでいいのかなと。

(土田) これは、両方聞きたいなということ。

—— といいますのは、農産物のほうは結構ニュースで聞くのですよね。例えば米の全数放射線検査とか。ところが、海産物になると、陸揚げするのは福島かもしれないんですけど、

—— その話を深掘りする前に、正確に申し上げましょう。福島県内で警戒区域で、米はもちろん栽培禁止になっています。それからその周辺地域でも一部、米は作付け禁止になっています。それから、農海産物のうちの、例えばきのこ類は採取禁止になっています。それから海産物についても、ごく一部については、採取禁止になっています。ですから、禁止になっている中で、安全だと思うという言い方は、少し変なのですよね。その基準をクリアして、市場に出回っているものはいいんですけど、だからそちらのことを聞いているのかなと思いますが、そのことを区別したほうがいいかもしれません。

(土田) おっしゃるとおりなのですが、福島県では、ぜひとも早く再開したいというのは切実なところだと思うのですね。

—— 「福島県産で市場に出回っている」という言い方をすればOKです。

(土田) そうですね。

—— でも、福島県以外の人たちにとっては、福島県産といったときは、当然市場に出回っているものであって、市場以外のルートで自分のところにくるものはないのだから、福島県産ときたら、しかるべき検査なり基準をクリアしたものが来ているということになるのではないですか。

—— 一般的にはそうですけどね。無人販売所みたいなところもあるので。

(土田) 柔らかく言うのであれば、「お店で売っている福島県の」というような言い方はありますね。

—— (書かなくても) 素直に受け取れると思うのですけど。

—— はっきり書いてもらったほうが分かりますよね。

(土田) そうですか。では、「お店で売っている」というのを入れましょうか。

—— 例えば、実家で作っているものはじゃあ安全か、とか。やはりそう思いますよね。

(木村<sub>浩</sub>) 「市場に出ている」より、「お店で売っている」というほうが分かりやすいですか。

—— 分かりやすいです。

(木村<sub>浩</sub>) お米、魚という言葉は、具体例として分かりやすくするために書いているのですけれども、削ったほうがいいですか。残したほうがいいですか。

(土田) 「お店で売っている」という用語を使うなら、「お米や魚など」というのは入れておいたほうがいいと思います。

—— サ) 福島県の除染が順調に進んでいる、というのは、何をお聞きになりたいのですか。私たちが周りから見て、進んでいると思っているか、ということを知りたいのですか。

(土田) そういうことです。

—— でも、誰も思っていないと思うけど。

—— 中通りの除染は県に委託されて、自治体がそれぞれ、地元の人たちとやっていて、年間 20 ミリシーベルト以下なのかな、とにかく低い値なのです。

ところが浜通りは、ゼネコンとかプロの人たち、国が主体的になって、大きく 3 つくらいのブロックに分けてやっているのですよ。だから、それは計画通りいつているのです。警戒区域だし、人はいないし、やればいだけで、日本中からいろいろな人がきて。

それはうまくいつているんだけど、中通りとかそういうところの除染は、低いレベルをさらに下げようというような除染なものですから、やっても効果が少ないということを最近だんだん皆分かってきて、順調に進んでいると誰も思っていないのですよ。

—— これは、進まないのですよ。全体が 100 だとすると、やっと 1 か 2 ぐらい進んだもので。この質問は酷だと思うのですよね。

—— 質問が、少し考えると難しいですよ。順調に進んでいるというのは、作業、国レベルの予算消化という意味での作業であるのか。放射線レベルが下がるという意味なのか。両方の答えがあると思うのですよ。

(土田) 実はこれは、首都圏に住んでいる人たちの意識として、福島はだんだん人が住めるようになってきてるといように見ているのか、そうではなくて、人が住める状態にすぐにはなりませんと見ているのか、ということを知りたい質問なのですよ。

—— 「進んでいると思うか」どうかを聞きたい。

(土田) はい。

—— 「と思う」を入れてください。

—— そうやってはっきりお聞きになったほうがいいのではないですか。

—— 除染ではなくて。

—— それがいいかもしれません。「住めるとあなたは思いますか」。

(土田) それは、きつくないですか。

—— 確かにそれはきついですね。

—— 「数年の間に戻れると思いますか」とか。

(土田) 「福島が事故前の状態に戻れると思いますか」というのはどうでしょう。あとは、年限をどう区切るかですが、10年とか。

—— それは、ノーと言うと思います。

—— 戻れると思いますか、だけでいいのではないですか。年限を決めなくて。

(土田) いや、今、戻ると言っちゃったけど、もう少しマイルドな言い方はないかな。

—— 福島県以外の人たちが得る情報というのはメディアを通しての情報なのですよ。メディアというのは、極めて極端なところに焦点を当てて報道しているわけです。だから、こんなにすごいよ、高いよ、廃屋のままだよ、野良牛がいるよ、つまり浜通りを意識して報道している。あの地域は、20年は大変なのです。完全には元に戻らない。

でも、中通りはたくさん人が戻ってきています。子どもたちもいますし、遊んでいます。風評被害等で今一番問題になっているのは温泉街とか、農作物に関してだけど、そもそも中通りなどの極めて低いレベルのところ、だんだん下がってきているのに、受け入れられるという人たちが大半いるのだけでも、メディアはその辺はあまり伝えないのですよ。安心材料は大きく報道しないものですから。

—— それを聞けばいいんじゃない？ 「福島情報が正確に伝わっていると思うか」。

—— 「福島県」と一律な言葉では言えないのですよ。分けないと。

—— 「福島県」と聞いてしまったら、そうなりますよね。

—— ある人は、浜通りに焦点を当てるし。

(木村<sub>浩</sub>) 私の中では、この設問は「除染作業が進んでいるかどうか」という議論をしているのかと思っていたのですが、戻るといふ話のほうがいいですか。

—— この質問の意図は、何なのですか。

(土田) 少しぼやっとしたところがあったのですが、除染作業の進み具合についての、もうこの言葉通りです。首都圏の人が、福島を除染作業の進捗状況をどう認識しているのか。

—— 裏を返せば、クリーンになりつつあるでしょうねという。

(木村<sub>浩</sub>) ちゃんと除染作業がやられている、ということを確認しているかどうか、です。そんなニュースを見た記憶がないな、なら進んでいないと書くだろーし。そのくらいのつもりで書いていました。

(土田) そうなのです。だから、おっしゃったように、予算消化のための作業なら進んでいるとか、ひねった答えは想定していなかった。

—— 正確に言うならば、「国や地方自治体が福島県内で行っている除染計画に則った除染作業は順調に進んでいるか」。そういうことですね。

(土田) 除染の効果がちゃんと現れているか、でしょう、どちらかと言えば。

(木村<sub>浩</sub>) 効果については、実はコ)でも聞けるのです。だけど、除染作業がちゃんと進んでいるかどうか、というところに関して、どう認識しているのかなというのは、知りたかったのですよね。

—— それなら、「行なっている」という書き方はどうですか。「進んでいる」という書き方をすると、効果があるというニュアンスが含まれると思うのですよ。行なわれているかどうかを聞きたいなら、行なわれているという文章でいいと思います。

(木村<sub>浩</sub>) それで、単に「除染」でなくて、例えば「福島県の除染作業は順調に行なわれていると思う」だと、作業が粛々と行なわれているかどうか、というニュアンスになりまじすけれども。

(土田) そのニュアンスを強調したいなら、「除染の努力」というようなワーディングもありますけれども。

—— ここは、戻れるか戻れないかの質問に変えませんか。

(土田) それはかなり大きな軌道修正になってしまう。それは面白いのだけど。まあス

ペースがあったら。

そうしたら、「福島の除染作業は順調に進んでいると思う」か、もう少しきつく言うなら、「福島の除染作業の努力はちゃんとなされていると思う」。

—— 努力と言うと、誰が努力するのか、となるから、素直に「順調に進んでいる」だけでもいいのかもしれないと思うようにもなってきましたけれどもね。

去年は、順調に進んでいるって、きっとたくさんの方が丸をしたと思うのです。今年は、どうもそうではなさそうだぞという人が増えているということのトレンドを見るには、非常にそれはいいと思います。

—— 調査というのは、厳密に前書きをつけてしまうと、前書き依存になってしまうので。

—— 「除染は」というとレベルの問題が含まれているような気がしますけれども、「除染作業」にするとそれはなくなりますね。

(土田) では「除染作業」にしましょうか。「福島県の除染作業は順調に進んでいる」。

(木村<sup>浩</sup>) 作業にすれば、進んでいる、でいいですか。「と思う」は要らないですか。

—— いや、「と思う」もつけて。

—— 質問の趣旨とは違っていますが、効果は低くなっているのですよね。だんだん低減効果が出ているのと。それから、基本的に福島に戻れるようになった効果というのは、除染よりもやはりセシウム134の自然減衰のほうが大きいのですよね。除染作業の寄与率は、せいぜい2割かそんなもので。

—— そうなのですか。

—— 元気ネットさんが、そんなこと言っていていいんですか。

—— だって、そういうニュースは流れないじゃないですか。

—— それはおかしい。ものすごく下がっているんですよ。

—— 下がっているとは思いますが、作業で下がっているのかと思っていました。



(土田) では、これは引き取らせてもらいます。

では、9ページに移ります。原子力規制委員会を作ったということが、事故後の政府の対応としては目玉だったわけですので、そのことに対して、一般市民がどう考えているかということ、こういう形で聞こうと思います。ただ、もちろん、考え方としては、そもそも原子力規制委員会を知っているかどうかという設問が要らないのかということがあるのですが。

—— まあ知らない人は、全部「わからない」に入るでしょう。

—— 保安院と安全委員会が統廃合し、規制委員会ができたとありますが、規制庁はどのようなのですか。

(木村<sub>浩</sub>) 規制庁は規制委員会の事務局ですから。

—— だということは、分かっている人は分かっていますけどね。

(木村<sub>浩</sub>) なので書いていないのです。最低限のデータだけ。

本当は、どういう目的かとか、そういうものもホームページから取ってこようと思ったら、何一つ書いていないんですね。

(土田) 経済産業省の外局から、環境省の外局に移ったということは事実として大きいので、一応ここで、そうですよという知識を与えた上で答えてもらおうかと。

(木村<sub>浩</sub>) 規制庁のホームページはないのです。規制委員会のホームページしかありません。規制庁は規制委員会の事務局だから、事務局でホームページを持つというのはおかしいだろうとたぶん判断しているのだと思います。

—— 世の中の考え方と逆なのですね。規制庁というものがあって、規制委員会があるというか、そんな感じを受けていました。

(木村<sub>浩</sub>) でも、規制庁を引くと、公式ホームページが出てこないのです。

(土田) それは、長官が委員長よりも偉いということになると困るということではないかなとも推測はしますけれども。

—— でもこれなら、アンケートを答えるときに、原子力規制委員会というものがあるこ

ともよく知らなかった、とか、どういうものか分からないなという人も、これを読めば、とりあえず最低限の情報を得て答えていくということになるのですね。

(土田) そうです。わからない・知らないという選択肢もありますので、いざとなったらそこに全部つけてもらおうと。イメージで答えられそうだと思うたら、何かしらつけてもらおうかと。

—— 自由記述で書いてもらうのかもしれませんが、規制委員会に対してどういう関心が集まっているかという、2つあると思います。

1つは同意人事の話ですね。そもそも、なっちゃいけないのになっているのではないかとおっしゃっている反対派の人は、ご自由にお書きください、に書くのでしょうかと思います。ただ、おそらく緊急事態宣言が出ている限り、国会同意人事はかからないでしょうから、あの人たちが原子力行政に続けるんだって、脱原発の人は言い続ける問題ではあるとは思いますが。それが1点目。

もうひとつは、実際の場合だと、今も政治のマニフェスト等で、「原子力規制委員会の科学的な判断に基づいて、再稼働の認定をします」という言い方をしている。今、それが象徴的に、例の大飯の断層の評価で、あれは活断層なのですか、そうでないのですかというのがニュースで流れている。そういう意味では、ある意味「頑張り規制委員会」、もしくは、「本当にここがサイエンティフィックな判断をしてくれるのですよね」という思いがあるときに、どの項目で回答すればいいのか、迷うという話があります。

(木村<sup>浩</sup>) 人事については、自由記述に書いてもらうしかないですね。それは組織がやれることではなくて、組織外の仕事だから。

科学的知見に基づいて、という部分が、どこかというのは。

(土田) エ) 中立な第三者機関としての立場、というのはあるのですね。学会ではないので、「原子力についての知識をリードすること」はあえて削ってあるのですが、今のご意見だと、「科学的技術的な知識をリードすること」というような項目があつていいというご意見ですか。

—— いや、そこまで具体的には落としていなくて、今、すでに、マスコミ情報に接している方々の認識の中での原子力規制委員会の役割は、あれが活断層であるかどうかを認定するものであって、それを受けて、今度の与党が再稼働する。つまり再稼働の前提の科学的判断を原子力委員会がするのだね、という認識はかなり共有されていると思うのです。その期待がどの項目に落ちるのか、一見分かりづらいというのが、私のコメントの趣旨です。

—— だけど、それは間違っているでしょう。委員会が認定するのではないですよ。委員会は、活断層かどうかしか言わない。再稼動するかしないかというのは、内閣総理大臣がやる。

—— それはその通りです。

—— そこははっきりしておかないと。

—— そこははっきりしています。サイエンティフィックな判断を原子力規制委員会がしますということ、逆に政府政党は、今、一斉に言っちゃっていますから。

—— それは言っちゃっていても、言っていなくても、そうなっているからいいのですけどね。

—— いいのです。でも問題は、そういう回答が、

—— マスコミが、規制委員会に全て判断を委ねるような認識をしているということは、必ずしも正しくないですよ、ということです。

—— それは理解した上で、回答者が答えるときに、フラストレーションが生じているというのは事実だという話です。

(木村<sup>浩</sup>) どういう項目にして聞いたらいいですか。

—— 所掌事務がはっきりしない中でそれを書くのは大変だったと承知していますが。

(土田) ある意味、ア)からオ)、あるいはエ)まででは、背後に原子力規制委員会が知識的に有能であるのであるから、こういうことができるよね、という前提で設問されているのですね。ですから、直接びたつと落ちるところはないにしても、全部それが背後にあって答えていくのではないかと想定はしているのですが。

—— それは、解釈すれば、例えば中立的な第三者機関とかには入るかなと。その辺の、文言的に足す必要があるかどうかは検討の余地だと思いますけれども。

再稼動の政府の判断の前提たるサイエンティフィックな判断をする機関として、頑張り、そこは信頼しているぞというのを認識スキームを持ってしまっている人は、どこに丸をつ

けたらいいのですかというお話です。

(土田) 今私が言ったことを明示的に書くとすれば、例えばア)の場合は、原子力発電の運転が安全に行なわれているかを、科学技術の知見に基づいて監視すること。事故やトラブル時の分析・評価を科学的に行なうこと。というような形に付け足すこととなりますが。

—— 科学的というのはどういうことを言っているのですか。

—— それは難しい判断ですが、サイエンスというものを一般的にどう思っているかという次のレベルの質問になってくると思います。

—— むしろ、中立の第三者機関としての立場で、評価・分析することだと、私は認識するのですけど。

—— 中立というか、科学的判断という言い方をするほうが、

—— 「科学的」という言葉は、メディアが言っているのは分かりますけど、どこから出てきたのですか。

—— 田中委員長が明言しているのです。

—— そうなのです。それを受けて、各党マニフェストでも、一斉に言っています。原子力規制委員会の科学的判断に基づいて、再稼動を厳密にと。

—— この設問は、原子力規制委員会が何をするかという議論ではなくて、どういうことを期待しているかという議論ですから、例えば今おっしゃられたことであれば、「原発の安全性を確認する」とか、そういう文言をひとつ入れればいいということになりませんか。

—— それでもいいと思います。

—— まあ、広い意味では、ア)とかイ)とかウ)に入ってくるのですよね。

—— 入りますけど、でも明示的という意味であれば、1つ入れるということはあると思いますね。

—— むしろ気になるのは、キ) とク) が少し似ていて、で、似ているのはまだしも、ク) の啓蒙活動は、たぶん規制委員会側には入っていないと思いますよ。

—— それは、規制委員会の仕事ではないかもしれませんが、規制委員会でこういうことをやると思っている人もいるかもしれないではないですか。

—— わざと入れているわけですね。

—— 期待することだからいいということですよ。

「啓発」にしたほうがいいと思います。蒙は使わないほうがいい。

—— この項目は、その中で行なわれていることと、その中から発信するということが書かれていますよね。

事故が起こったときに、学会の方か技術者の方が、「こういう案があったのに」と言うのを、後で私たちは知りましたよね。それが実際に行なわれていけば、事故がストップできたのではないかと思われるような情報が結構出てきて。それが、あるところまでは行っていたのに、誰かが受け入れてくれなかったのか、そこまで届かなかったという件はいっぱいあった。ですから、外からの意見を受け入れてもらいたいというのが、たぶんあると思うのですよ。それが、この項目の中にないので。

私は、地方自治体と今勉強をしているものですから、どこもそうなのですけども、意見がほしいと思っているのですけれども、あまりいろんな意見はいらないうことになっているので。外からの意見を受け入れられるという項目がひとつほしいと思うのですけども。

(土田) キ) の逆ですね。データの受信ですよ。それに近いのはカ) なのですけども。

—— 知識の集約。知識だけではなくて、例えば組織のあり方とか。

(土田) つまり、簡単に言うと、聞く耳を持って欲しいと。

—— そうです。そして、耳だけではなくて、場を。公のところで、場を設定してほしいというか。

—— 先ほど、規制庁がここに含まれるとおっしゃっていますよね。規制庁は保安院の延長にあって。そして、保安院が規制庁に移って、同じようなメンバーで、広報・広聴室と

いうのができているのですよ。広報というのは、ここでいうク)の知識普及・啓発活動に相当するのですけれども、広聴を少しずつやりつつあるのです。だから、それをもし期待に入れるのだったら、「広報・広聴」という項目を入れると、いいのかもしれませんがね。

—— うーん、そうですね。でも私は、今までのやり方ではなくて、原子力規制委員会に直接言いに行ける場所があったらいいと思うのですけど。

(土田) では、提案します。ク)の上か下辺りに、「外部の機関や人から意見を聞く活動」を入れる。

—— それは広聴活動ですよ。おっしゃっていることはよく分かるのですよ。だけど、桃太郎侍のところでは、そんなのはなかなか難しいのですよ。

—— 難しいですよ。市民側も育っていないので、実際は難しいと思うんですけど。だけど、期待するところではそれかなと思って。今までの広報・広聴活動だと、やはり向こうからの何か力で広報・広聴活動をしている。そうではなくてこちらから、そちらとは全然関係なく、行ける場がほしいなど。それを公のところ。

—— まさに原子カムラの人との会話ですよ。

—— だと思います。広報・広聴活動というと、私は少し違うと思うのは、広報・広聴活動も、やはり内部からの力が外に出ているのですよ。そうではなくて、そちらとは全然関係なく、こちらがそちらに期待するとか、言いたいことを言える場を設定してほしいという期待なのです。

—— それは、言えるだけでいいのですか。

—— いや、ちゃんと聞いてもらいたいのですけど。

—— それは、ヨーロッパなどではあるのですよ。だから、そういう仕組みを作ってほしいという、おっしゃっていることは分かりますよ。

(土田) すみません、時間もありますので。では、「外部からの話を聞く場を作る」という項目を入れるということによろしいですね。

—— あと、すみません、1つだけ。「事故時・緊急時のリーダーシップ」なんていうのは

どうでしょうか。

—— それはいいですね。よく言われていますね。

(木村<sup>浩</sup>) スペースの問題もあるので、今日いただいているのは、科学的判断というところをもう少し明示化できないかという話と、再稼動に関しての話と、外部の話を書くという話と、リーダーシップの話。4つ項目がありますので、その辺りを踏まえて、少し数とスペースと調整させてもらいます。

(土田) 何にしても、1 ページで収まるように。

(木村<sup>浩</sup>) はい。自由覧はあったほうがいいですよ。これがないと困るので。その辺を調整しながらやりたいと思います。

(土田) 最後に10 ページですが、これはフォーラムと関わり合いの非常に強いところなのですけれども、原子カムラに対するイメージです。8問プラスその他という形で、こんなイメージを持っているかどうか、確認したらどうかなというのを入れています。

—— テクニカルなコメントですが、複数選択より、これこそ個別のスケールにしていたほうが良いような気がします。平均だけではなくて、おそらく分散にも意味があるでしょうし。

例えば、「原子力に携わっている人たちは権力志向だ」と、これだけを見ると、丸をつけにくいですよ。なので、これこそ、前ページまでやっているような、項目ごとのスケールのほうがむしろなじむのではないかと思います。そうすると、特に印象は持っていないというところは、スケールになじみませんが、これは、丸をつけるのはきついなというのが初見の印象です。ご検討ください。

(土田) 検討させてもらいます。

そして、下に書いてあるのですが、フォーラム検討グループから、2問ほど、こんな設問はどうかという提案をいただいています。

震災直後の省エネ生活を続けるとして、どのくらい続けられますか。これは、おそらく2問に分けて、省エネ生活をあなたはやっていますかということを書いて、イエスと答えた人へのみ、その生活をどのくらい続けられますかという形で聞くことになるだろうと思います。

あとは、原発と電気代の関係なのですが、これも原子力学会の中では、原発をやめたら電気代が上がるということは自明の理なのですが、実をいうと、うちの学部

の3年生150人くらいのクラスで、「原発をやめられるのなら、1割電気代が上がってもいいと思うか」と聞いたら、手を挙げたのは3人しかいませんでした。

—— 1割ですか。

(土田) ええ。1割です。それ以上になったらどんどん減っていく。原発をやめるということと、電気代が上がるということは、ほとんど分離して考えている。

(木村<sub>浩</sub>) うちの学生はそんなことないですけど。

(土田) そうですか。失礼しました。

(木村<sub>浩</sub>) ほとんどの学生は、当然上がるから、原発やるでしょうと。やってもらわなきゃ困ると言っています。

(土田) うちの学生は、原発は、とはいっても怖いし、でも、電気料金が上がるのは困るし。

(木村<sub>浩</sub>) やはり理系と文系の差かもしれませんね。

—— 学生さんは、今保守的になっているし、お金がないし、そういう意見になるかもしれませんね。

—— 2つ指摘があります。まず電気代なのですが、今のところ、原発を全部やめた場合に、燃料費の国費流出が2、3兆円ですから、それを国民1億人強で割ると、1人1年間で2万円、3人家族だと6万円、これを月額に直すと5000円なのです。マックスで5000円です。だから1万円アップ以上というのはありません。強いて言うならば、5000円以上という選択肢はあるかもしれない。落とすところは最大で5000円です。

(木村<sub>浩</sub>) これは、例えば新エネを代わりにどんどん入れていくと、高くなるとかはないのですか。

—— それまで入れると、5000円を超えますね。

(木村<sub>浩</sub>) 化石燃料で全部代替すると、5000円ぐらいということですよ。



—— そうです。それから、これは 5000 円と 1 万円の間が抜けているのですよね。これも変かなと。だから、それを含めて、「5000 円以上」という選択のほうがいいかなと思います。

それからもうひとつは、その上の設問の 7 番目、「そもそも原子力は道徳的に問題がある」とありますが、道徳というのは人格に関わる事柄ですから、原子力を法人とみなしているのかな、と思いますので。自動車に道徳的に問題があるとか、新幹線に道徳的に問題があるとかいう言い方は違和感がありますので、少し変かなと。

(土田) 違和感はあるのですが、でも実際はここではないかと思うのです。原子力というのは、役に立つかどうかのレベルではなくて、人間としてしてはいけないものだというような。

—— 百歩譲って、せめて「倫理的」でしょうか。

(木村<sup>浩</sup>) 倫理的のほうがいいですか。日本語だと、倫理と道徳はほぼ同じに使われていますが、どうでしょう。

—— 私は、倫理のほうが根本だと思います。

—— 理系の人で、学会員などは、道徳的問題という用語は、かなり引っかかる人も多いですよ。

—— でしょうね。引っかかる人が多いから外すということではないのですよね、意識調査というのは。

(土田) 仮説としては、一般の人は、まさにこれで、原子力というのはヒロシマ・ナガサキと同じものなのだと。だからこういうのはやってはいけないのだと。もうそれ以上の議論は全ていらぬ。

—— 分かりました。意図はよく分かります。

(土田) ですから、この項目を入れてみて、そう思っている人がどのくらいいるとか、少し確認したいのです。

—— 同じところなのですが、まず最初に、「原子力に携わっている人や組織について、おうかがいします」と書いてあるところに、「原子力は」というのを持ってくるというのは、この質問の背後には、そもそも原子力は道徳的、あるいは倫理的に問題があるから、それ

をやる人は道徳的や倫理的に問題があると。

(土田) そういうことです。

(木村<sub>浩</sub>) でも、そう書けないからこう書いているわけです。

—— フォーラム検討グループからの追加のお願い、これは追加するという方向で検討していただくのですか。

(木村<sub>浩</sub>) 追加してほしいという申し出です。前回もお話しましたが、フォーラムの参加メンバーを選択するときには別途アンケートを入れますね。そこに入れてほしいということです。だから、フォーラムをやる上で、その背景情報として、どういう人たちが来ているかという情報としてほしいという話です。

—— これはおっしゃるとおり、原子力の賛否にものすごく直結する質問だと思うのですが、質問によっては、脅しに近いようなものになりますよね。

(土田) 誘導質問になりえますね。なりえますけど、まあ許容範囲かと。

(木村<sub>浩</sub>) なので、最後に取り上げてくれば、影響は少ないかなと思います。

(土田) それこそ、省エネ生活をしているかどうかは、フェイス項目に並べてもできないことはないのですが、聞けないことはないです。ただ、くれぐれも、省エネ生活をやっていない人が悪みみたいな形に誘導してはいけないので、そこは工夫が要りますね。

—— この後持ち帰って要検討ということですね。設問から考えるということですね。この場で設問を考えるのは無理ですね。

(木村<sub>浩</sub>) そうです。これはだから、設問を考えて下さいというお願いです。

(土田) 分かりました。今月中に、14日と19日に調査会社の人も交えて最終検討をして、19日には質問紙を完成させる予定でいます。その間に全体会合の予定はないのですが、あとはお任せいただいて、ご意見を踏まえさせていただくということによろしいでしょうか。

—— 1つだけいいですか。Q14なのですが、この聞き方だと、「原発があっても発展できない」と考えている人たちが取れないと思うのです。そういうニュアンスも取れたほうが

面白いのではないかと思うのですが。

(土田) そうすると、「原子力がなくては日本は経済的に発展できないと思いますか」という質問ならいいわけですね。

(木村<sub>浩</sub>) 「も」ではなくて、「は」ですね。

(土田) それでいいですね。そうすると、原子力があっても発展できない、が取れる。では、フォーラムのほうに移らせてもらいます。

(木村<sub>浩</sub>) 少し休憩をとりましょうか。5分くらい休憩をとりたいと思います。この時計で50分になったら再開します。

### 3. フォーラム検討グループ進捗報告

(木村<sub>浩</sub>) それでは時間ですので、後半を始めたいと思います。後半ですが、フォーラム検討グループの進捗報告になります。

議事録が2つあります。第1回の業務推進全体会合が11月中旬にありましたが、その後フォーラム検討会議を2回開催しています。2-4と2-5がそれぞれの議事録になっています。こちらは今回読みませんが、11月27日に第2回、12月5日に第3回をやりました。その中でフォーラムについて検討して、整理したものが2-10の資料になりますので、こちらを説明をしていきたいと思っています。

今日、ある程度の決着を見ておきたいのは、2-7から2-9までをお配りしています、別紙調査票の内容です。こちらは記名で回収してもらおうというものになりますので、この辺についてのご意見を少し伺えればと思っています。

その他に、今日は時間がなくて用意できなかったのですが、フォーラムの概要を説明して、ご協力を促す文書が必要なのですけれども、それについての説明文などについても、ご意見をいただければと考えております。

ということで、まずは我々の中でどのように議論を展開していったかという話を、2-10を用いて説明していきたいと思っています。2-10の見方ですけれども、箇条書き形式で書かれています。箇条書きの頭に丸がついているものがあるのですけれども、中黒の二重丸は、前提というか、もうだいたい決着のついたものとして書かれているものです。一重の丸というのは、検討をやりつつも、今後も継続していく必要があるというもの。二重丸は、早急に確定しなければいけないこと。その辺が分けて書かれていますので、今日は、二重丸のところについて、ご意見がいただければと思っています。フォーラムの検討グループの

中でも、かなり議論したのですけれども、それに加えていろいろな意見をいただければと思います。それでは中身に入ります。

まず、このフォーラムに関して議論を整理するにあたって、前回竹中君のほうから紹介がありましたけれども、若松先生の本によると、コミュニケーション・フィールドを考えるときにどういう順番で考えるかというのがありました。それが、「観察者の目的設定」「フォーラムの目的設定」「テーマ研究・専門家ネットワーク」「市民パネルの募集」「ワークショップの内容、段取りの決定」という 5 つの項目になります。それに従って、我々の中でも議論を展開したということになります。

最初の「観察者の目的設定」、これは我々研究実施者の視点ということになりますけれども、これは 1 回目のときにもご説明をしましたが、設定をしております。一応確認のために読みますが、「ムラびと」と書かれています。専門家ではなくて、「ムラびと」としました。「ムラびと」と「市民」の協働によって「原子カムラ」を越えるという最終目標に一步踏み出すために、「ムラびと」と「市民」とのコミュニケーションの場（フォーラム）を設計し、「ムラびと」と「市民」の相互作用、ダイナミズムを学術的に記述し、原子カムラを越えるための要件を洗い出すということです。

次の丸になります。ここから先はグループで検討した話を整理したものです。それでは、この観察者の目的を達成するためには、どのような条件が必要なのかということで整理しています。まず 1 つ目の三角ですけれども、コミュニケーション（お互いの間の情報移動と変化）が起こること。その下の星印は、他の文献から持ってきたものですね。

コミュニケーションの意味というのは、「人と人々が互いに関わろうとする試みであり、話しかけ、応じていくツーウェイ」であると。

あとは、お互いの間で情報の移動が起こり、相互作用としてお互いに「変化」が起こること。情報の移動だけではなくて、やはりお互いの変化というものコミュニケーションということですよ、というのがあります。なので、この研究の目的としては、「変化」まで起こすということがある意味では重要であって、その「変化」をどうやって学術的に分析をしていくかということが目的であるということです。

次の三角になります。では、情報の移動が起こるにはどうしたらいいのかということです。従来の情報の移動は、特に原子力という話題に関していうならば、「ムラびと」→「市民」であるので、情報の移動が「市民」→「ムラびと」になるような話題を見つけることが大切であろうと。さらにいうなら、その移動がお互い「価値がある」と共有できるような話題であるということが必要であろうということになります。

それに関しての意見ですけれども、「原子カムラ」を越えるということが目標であるので、「原子力」の話題を避けることはできないだろうということです。

原子力の話であっても、例えば「安全神話」「リスク」等の話であれば、市民がどのように考えているかをムラびとが知ることは価値があることであって、ムラびとがその価値を

認めるのであれば、「市民」→「ムラびと」の情報の移動が起こるだろうし、そういうことを考えたらいいのではないか。

また、「放射能」「原子力発電」そのものであっても、市民は日々の生活からの感覚でそれらについて話すことができるのであり、ムラびとが市民の考え方を知ろうという気持ちがあれば、「市民」→「ムラびと」の情報移動は起こりうるということです。

ただ、情報移動が起こったことというのは、相互作用的な「変化」が起こったことではないので、そこは注意が必要ですねということがまとめられます。

次の三角は、その「変化」について書かれている項目になります。お互い（特に「ムラびと」）の解釈・思い込みの変容、価値観の変容、リフレーミング、新しい気づきが起こることが、今回の研究目的を達成するためには必要でしょうということで、そういうことを起こすためにはどうしたらいいかということを検討した結果です。

「社会的リアリティ」と書いていますけれども、その人が生きている世界がどういうものか、誰が周りにいて、どういうことを考えるのが「普通」なのか、そういうことの共有が大切なのではないかということ。

それに対しては、例えばこれを共有するのであれば、5回のフォーラムのうち、それこそ1回目には「社会的リアリティ」を共有するような枠組みを検討する必要がありますねと。具体的にどうしたらいいかというのは、今後検討が必要になるということです。

次の星印ですが、経験上、「自分の意見を言う」よりも、むしろ自分の意見は伏せておいた上で、周りの意見を聞いて場を作っていくという「ファシリテーション」をしていると「気付く」ことが多いということも、意見として出ましたので、これは具体的に、とりあえず参加者には順次交代して「ファシリテーター」をやってもらおうというような仕組みを考えてみましょうということで、それをさらに具体的にするにはどうしたらいいかというのを今後考えていく必要があるということ。

あと、「ファシリテーター」の存在についてですけれども、自分の発言の意図が正しく伝わっているのか、第三者に判定してもらえる効果がある。

そういうことを受けて、初期の段階で、議論のベースとなる知識を、専門家から市民に説明してもらおうという時間を設けてはどうか。専門家には、自分たちの言葉が市民にスムーズに伝わらないことを実感してもらおう。市民は、専門家に徹底的に質問できるようにする。このことで、立場を越えた信頼も生まれるのではないか。ただし、そういう場合に「ムラびと」対「市民」のような構図になってしまう可能性もある。これはひとつの案として出ていて、今後この辺りをどうするか、もしくはこれを採用するかしないかというところまで含めて、具体的な検討していく必要があるだろうということで、案としてここに書いてあります。

次の三角にいけます。今までの三角では、コミュニケーションの定義と、その情報の移動、変化ということを検討してきましたけれども、その上で、本来リスク・コミュニケーションということを考えていくと、やはり「協働してリスクに対応する」ということが必

要になってくるので、こういう意識を養うということが将来的に結びついていくといいですねという、非常に野心的な話です。カッコつきで書かれているのは、今回の研究目的の中には入らないけど、こういうことを将来的に考えていく必要があるでしょうということで書かれているものです。

次以降の三角は、全体に関わるような意見として書かれているものです。「変化」を起こすためには、フォーラムの時間が十分に必要であるので、フォーラムの時間設定などに関わるだろうということで、ここに書かせていただいています。話し合うだけ、観察するだけでは、気付くことはあるけれども、「変化」は難しいのではないかと。「変化」を促す、あるいはきっかけになるには、市民と専門家の共同作業があるといいのではないかとという意見が出てきたということです。

具体的には、グループ作業でも役割分担するとか。役割によっては、知識とは関係ないスキルがありうると。そういうことも気付けるのではないかと。

たとえば「意見をまとめてください」というグループ作業をやると、逆にそのグループの中で、まあこれは社会的リアリティの使い方が正しいかどうかというのは少しありますけれども、そのグループの和を乱したくないというような力が生まれることによって、普段いる自分の社会的リアリティとは違うような場が作れるのではないかと。普段のリアリティを抑制する可能性がある。共有する場の設定になるかもしれない。というような意見が出されています。「観察者の目的設定」のところ、この目的を達成するための条件ということで、いろいろと話し合った結果がここまでになります。

とりあえず最後まで一通りお話をしてからいろいろご意見をいただきたいと思いますので、もう少々お付き合いいただければと思います。

次に、「フォーラムの目的設定」です。今度はフォーラム参加者の視点として考えるということです。今までの、我々研究者の視点だとしたら、今度は参加者の視点です。フォーラム参加者は何を目的に参加するのかということで、議論を展開していきました。これは、ある意味ではフォーラムで何を話題とするか。結論をどのようにしていくのかということに類似した問題設計となるかと思われまます。

我々の中でひとつ落ち着いたのが、やはり原子カムラを越えていくという研究の目的自体がかなり面白いものであって、フォーラムの参加者も、これに対して興味があるのではないかとということで、フォーラム参加者の目的を、ほとんどイコールの形で、観察者の目的と置き換えられるのではないかとという意見がありました。

そのために、次のページに文案が書かれていますが、こういう文案を作って、募集すればいいですねということです。その間に星印がたくさんありますけれども、これはフォーラムの参加者の目的と、観察者の目的をつなげるためにどのようにすればいいかということ、いろいろ意見を聞いたものになります。ですので、この文案の中にだいたい含まれていますので、文案を読ませていただきたいと思います。

私たちは「原子カムラ」を越えるために、どのような仕組みが必要なのかを明らかにする研究を行っている。そのために、私たちは「フォーラム」と呼ばれる仕組みを活用して、どうやって「原子カムラ」を越えられるのかを、5回のフォーラムを通じて見つけていく。「フォーラム」は、首都圏在住の方10名と日本原子力学会員10名が参加し、原子力を含みながらもその他のいろいろな話題を対等な立場で話すことによって、原子力の今後について、協力して取り組んでいけるための基盤を作り出すことを意図して作られている。

皆様には、ぜひこの「フォーラム」にご参加をいただき、「原子カムラ」を越えるための仕組みを作り上げることに協力いただきたい。

という感じで、参加者と我々研究者の目的を一致させて、そういう意識で取り組んでもらうということにしたらどうかというのがグループの案となっております。

次の三角になります。目的はそうだとすると、メリットをやはり整理しておきましょうということです。

市民のメリットとしては、研究に参加できる。学術的成果があがる。専門家に会える、会話ができる。意見を言える。わからないことを質問できる。謝金。最後のシンポジウムで、社会に対しフォーラムの成果が発表される。というような、研究に参加できるということ自体が、市民からは面白いし、メリットだという意見もありました。専門家に会える、話ができるということもメリットだということです。あとは謝金というのもメリットになるので、これは入れておきましょうということで、入れておきました。あとはやはり、自分たちが関わったものが、ちゃんと社会に発信されるということもメリットとしてあるのではないかとということで、そんなに悪い枠組みではないのではないかとというのが、グループの中で検討した意見です。

一方で、専門家のメリットのほうが、実は難しいのではないかと話が出ていました。市民の感覚を知る。市民と専門家の認識のずれを知る。専門家が過剰反応していたことを知る。市民の考え方を知ることによって、例えば、突っ込まれない話し方等ができるようになる。原子カムラを越えるためのヒントが得られる。こういうメリットが設定できるけれども、やはり意識が高い人に対するメリットになっているということで、リスク・コミュニケーションとか、社会との接点ということに興味があるとか、そこをどうにかしなければいけないと思っている人たちが、こういう枠組みにはどうしても入ってくることになるのでしょねという感じのまとめとなっております。これが後々効いてきます。

次の三角ですが、話題の案として、先ほどの「観察者の目的」を達成するための条件のところでも出てきたように、放射能や原子力発電等、原子力そのものに関する話題もありうるし、安全神話、リスクというように、原子力そのものではなくて、原子力に関わる話題をやっていくというのがありますね。両方あるので、それをもう少し詰める必要がありますねということになります。

最後ですけれども、オープンエンドにするか、クローズエンドにするかということに関しては、基本的に何か結論を求めるものではない、としたいということです。参加者の目的を、研究に参加してくださいということにしていますので、そういうものである以上、このフォーラムを通して何か提言を作るとか、そういうものではないような場にしましょうというのが設定です。

次にいきます。「テーマ研究、専門家ネットワーク」。これは、通常のコミュニケーション・フィールドであると、何か話題を設定して、それについていろいろ市民参加で話し合いましょう、みたいなものが主ですので、そういうときには、どういう専門家を呼んでくれればいいのか、みたいな議論が出てくるのですけれども、今回は、中でじっくり話し合いましょうという議論ですので、どちらかと言えば、講師等を考えるというよりは、中でどうやって回していくかという議論です。ファシリテーションをできる人たちをしっかりと確保しておけば、特にここは問題ないのではないかと思います。ファシリテーションは元氣ネットさんを中心に、いろいろとやっていただくことになると思います。

次に「市民パネルの募集、決定」。ここが、今日決めないといけないことが書かれている部分だと思います。

まず1つ目の黒丸ですけれども、これは条件として決まっていることです。1月実施の調査（首都圏調査 500名、学会調査 500名規模）から、それぞれ10名を選択するということになります。選択は2月の業務内容になるということです。

では、どうやってその10名を選択していくのか。その基準について、検討をしました。そのときには、この2-7の資料を見ながら検討したということになります。

最初の三角は、まず前提として、市民、専門家共に、両極端な人が選ばれることが本来は望ましいのではないかと。同じような人とか、偏りが出てしまうのはよくないのではないかとというのが前提としてありました。いろいろな人たちが集まって、その中でどういうコミュニケーション・フィールドが設定できるかということが、本来知りたいことですよというの、大前提として我々の中で共有認識しています。

その上で、市民を選択するときの判断基準、まずは選択できるだけの人がくるかどうかという問題はあるのですけれども、いたとした場合の基準としては、できるだけ社会的リアリティの異なるメンバーを集めるべきということで、やはり年齢、職業、学歴などで分けるのでしょうかという意見も出ています。

専門家は、別紙調査票のQ5～Q8ではグラデーションがつかないですね、ということでした。あとは、フォーラムに参加を希望する専門家は、リスク・コミュニケーションなどに関心がある人ばかりになってしまうのではないかと。参加者のメリットを整理したときに、どうもメリットが、リスク・コミュニケーションに関心がある人に対するメリットになっていると。やはりこういう枠組みで参加者を募ると、専門家はリスク・コミュニケーション



ンに関心がある人になってしまうのではないか。これに関しては、運営側が専門家を選んで依頼するという方法もたぶんあるのだろうけれども、恣意性があまりにも高いので、サイクル 1 は調査票からやはり人選するべきだろうと。そういうことが課題としてありうることを指摘しておいて、それでやはり偏りが出てしまいましたということであれば、サイクル 2 には、少しこの部分を考える必要がありますねということ、実はすでに話しています。

このような基準に対しての意見を整理していった、選択方法として我々が今のところ考えているのは、原則としては、年齢を 2 段階に分けて、性別が 2 段階、あとは原子力の利用という設問に対して、利用していく、やめる、どちらともいえない、の 3 段階で、そうすると  $2 \times 2 \times 3$  で 12 パターン出てきますので、その中から考えるしかないですかねと。あまりいろいろなことを選択肢には入れられませんねということ、そういう方法で今のところは考えております。

その他の項目というのは、例えば 1 つのパターンの中に多くの候補者がいた場合に 1 人に絞り込むときに使う。例えば、ムラに関わっている人たちの印象が、10 人で同じにならないように、そういう意味で設問を利用するということを考えています。

専門家の場合には、原子力の利用という設問では、おそらく差がつかない。また、性別でも差がつかないということで、例えば専門領域で考えてしまってもいいのではないかと意見も出ています。ここについては少し意見を聞きたいところです。

そして、こういうことをいろいろ検討して、アンケートの案としては、2-8 のようなものにしたらどうでしょうかということになりました。次は、2-8 をご覧下さい。

表面には、性別、年齢、職業があります。最初は、市民の社会的リアリティのところでも学歴も入れていたのですが、これはやはり難しいですねと。あとは文系、理系で、人数比が対等ではない。理系のほうが少ないですので、そういった理由から学歴は除外をしています。表面だけを書いて、裏面を忘れる人というのは必ず出てくるので、表面だけで分類できるようにしています。

裏面には、安心不安と、経済発展の話と、専門家の印象を入れています。その他に追加として、先ほど市民調査グループのほうから話していただきましたけれども、2 問を追加して、事前にどういう人が集まるのかということ把握しておきたいということです。

次に、この別紙調査票を書いてもらうために、別途、フォーラムに関しての説明文を書かなければいけないわけですが、どんな文面で募集するかということについて、これは時間が足りなくてディスカッションできなかったのですが、私のほうで論点をまとめています。研究の目的は、先述の文案のを少し使おうかなと。あとは、フォーラムの実施方法（日取り、各回の大まかな話題・公開の方法）。参加者の選択方法。公開の方法、倫理的側面（特に個人情報）、協力の条件（謝金等）。こういう辺りをとりあえず盛り込むとい

うことになるのだろうか、ということで書いています。ここに関してはもう少し時間が必要かなと思っています。

最後のページですが、では、具体的に「ワークショップ（フォーラム）の内容、段取り」に関して、どのように考えるかということについてです。

フォーラムまでの日取りは、特にまだ議論を始めていません。まだ時間があるので、我々の中で設定すればいいので、これはまだ議論をしていません。

ただし、フォーラムそのものの日取りはそろそろ決めないといけませんねということ。あと、最終シンポジウムもあるのであれば、その日取りも決めないといけないということです。

まず、検討グループの中で決めたところは、曜日と時間帯です。これはやはり土曜日の午後ぐらいがいいのではないかとということです。1回につき3時間だと少し短かなということで、休憩込みで3時間半にしておいたほうがいいでしょうということで、13:00～16:30。17時という、もう1日終わってしまう気分だし、16時だと足りないということで、16時半にしています。初回は、やはり一番時間がかかるだろうというご意見でしたので13:00～17:00にしています。さらに、そのくらいの時間であれば、その場で少しデリバリーなどで懇親会をするのもいいのではないかとということで、こんなことを考えております。

各回の目標をどう設定するかということです。1回から5回までありますけれども、これはまだ案ですが、第1回はオリエンテーションにします。これは、先ほどから言っている社会的リアリティの共有を十分に行なう必要があるということで、何を大事にしているのか、「私のこだわり」みたいなことを共有して、アイスブレイクにも代えるというようなことが必要でしょう。後半は、「原子カムラ」を研究の題目にもしていますので、それについてどう思っているかということについて、意見を共有する。こういったことが第1回としてはふさわしいのではないかとということです。その後、ブレインストーミングとか、共同作業とか、ファシリテーションの練習みたいなことが書いてありますけれども、これは、具体的にどのようにそれをやるかということ、議論し始めたということです。

第2回から第4回は、少し飛ばしまして、次に決まっているのは第5回です。第5回は、5回を通して、自分たちの中で原子カムラの壁はどう変わったと思うか、ということ、共有することになるでしょう。ということで、第1回と第5回は決まっています。

そうすると、第2回、第3回、第4回について、どういう話題にするかを少し話し合ったわけですが、例えば第2回は、第1回が原子カムラについてどう思っているかという意見共有であったので、では原子カムラにある課題について、少し話し合うのはどうでしょうという意見。第3回は、原子力というよりは、もっと大きな枠組みで、省エネなどはどうでしょう。ある意味では、ここに省エネが入っているので、別紙調査にも省エネという項目を入れたいということにもつながってきますけれども、そういう話。第4回は、例えば安全神話みたいなテーマで、リスクなども含めて考えられるのではないかとこ

と。このような案が出ています。

その後、シンポジウムとありますが、シンポジウムはフォーラムのようなものではなくて、一般公開をしてやられるものになります。そもそもの研究の枠組みを話し、そして第1回から第5回を通して、皆さんがどのようなことをしたか。また、どのような意見を皆で話したのかという、そういうことを学術的にまとめて、公開する場ということになります。

次の三角、各回をどうスケジュールするかということとか、次のフォーラム参加者のシンポジウムへの参加要請は、第5回フォーラムで行えばいい、というところは、備忘録みたいなもので書いてありますので、ここは特に今回議論しません。

下線を引いてありますけれども、実際に何日にフォーラムを開催するかというのをこの前決め忘れたので、これを決めておかないいけません。アンケートを送付するときには、日程も載せておいて、5回全てに来てもらえる人という条件で出しますので、これは決まっていけないといけません。

次の丸です。公開の程度ですけれども、チャタムハウスルールの準用ぐらいのものでいく必要があるだろうと。個人情報取り扱いを注意するし、公開はするけれども、誰が言ったのかということは一切公開されない。どういう人が来ているのかということも公開されない。あとの情報は公開するというので、チャタムハウスルールそのままではないのですけれども、それを準用するような形でやりたいということです。

メッセージとしては、「安心して話してください」ということです。いろいろ好き勝手なことを、自分の組織とか、そういうことを背負わずに話してほしいということで、気をつけて、公開の程度を決めています。一方で、こういう場の信頼性とか、そういうこともありますので、そういうことも念頭に置いていますということ、この辺でもう少し議論しておかないといけません、と思っています。

ということで、フォーラムに関して、7時間ぐらいかけて議論して、整理したものになりますので、ここについてご意見をいただければと思います。

まずは、観察者の目的設定、特にこの目的を達成するためにどういう条件が必要なのか、ここについて、何かご意見をいただければと思います。

(土田) 最後の目的に、「変化」は要りますか。社会的リアリティを共有することができたらもう大成功で、それ以上に変わってほしいというところまで求める必要はないのではないかと思います。リアリティを本当に共有したら、変わるものは変わりますし。

変わらなかったから成果がなかった、みたいなまとめ方は、いかがかなと思うのですが。

(木村<sup>浩</sup>) 共有できれば変わるのであれば、それは「変化」なので。

(土田) でも、場合としては、「あなた方のことはよく分かった。でも、私は自分の意見

を変えないよ。やり方を変えないよ。」ということもあるので。それも大成功かなとは思うのですね。

(木村<sub>浩</sub>) そうですね。

—— あなた方のことは分かりました、というのが「変化」なのではないかという捉え方をしています。

(土田) まあ、定義の問題ですけれど。

—— すみません、4時に会社に戻らないといけないので、意見だけ申し上げて、途中退席いたします。ですので後ろのほうの議題までいってしまうので、ご了承ください。

アジェンダがやはり鍵だと思います。これは10人、10人が集まったクローズなこういう会議というのを想定すればいいわけですよ。

(木村<sub>浩</sub>) まあ、こう会議体になるとは思わないですけど。

—— その中で専門家と市民10人ずつが混ざって話すのだったら、そのアジェンダの設定の仕方、すべるのかどうかほとんど決まってしまうような気がします。なので、廃棄物の問題というのは話題としてありうるかなと思っていたのがひとつ。

あとは、変化を検証するのだったら、1回ごとか、最初か最後かは別として、個人個人に何かの申告をさせるという営みをさせておいたほうが、少なくとも分析の手がかりにはなりませんかということがひとつ。

(木村<sub>浩</sub>) それに関しては実は、社会調査グループで、毎回毎回アンケートをやるという設計になっています。

—— 話された内容も客観的に記録が残っていて分析がかかればいいのですけれども。討論型世論調査だと、あなたは何をやったかという追跡調査をやるときに、有意に出ているのは「新聞を読むようになった」とか「より情報を取るようになった」という変化を、自己申告で聞いているという前例があるということをご紹介したかっただけです。つまり、「変化」をどう検証するか、Howの方法論に関わるところなので、そういうことをやっているところもあるとご理解いただければと思います。今回かどうかは別として。

あとは、毎回同じメンバーが来るのだとすると、日程調整が大変だなというのを率直に思います。そのところで、破綻しそうな懸念がやはりあります。そうすると、ぶっちゃけた話をすると、回数減らすとかしないと思います。この会議体ですら、私も含めて、前回

休んでごめんなさいというのが生じるのだとすると、逆の考えとして、1回勝負にする。少なくとも2回だけにするとか。5回連続同じメンバーが、遅刻も欠席もないで現れ続けるというのは、想定しづらいですね。

まだしゃべりたいことはありますので、それはまた別途紙にして、木村先生にお送りします。

非常に野心的な試みで、これは絶対必要だと思いますけど、その点は支持派なのですが、とりあえずやってよかったねという結論が出るようにしたいですね。

(木村<sub>浩</sub>) まさに、5回全員集まるのか、というのは、我々も自信がないところです。

—— 正直に言うと、出たくても出られないという状況になるのだと思うのです。

(木村<sub>浩</sub>) そういうときにどこまで許容していくかとか、そういうことも少し、現実ベースで考えておかなければいけない。

—— なので、討論型世論調査は泊まりこみでやるのですよ。最初から最後まで。2泊3日の場合もありますし、日本だと1泊2日でやっているのですね。全プロセス参加が参加の条件なのですね。すみません、ここで失礼いたします。

(木村<sub>浩</sub>) ありがとうございます。今の議論は、また最後に出てくる話になると思いますので、少し後送りにします。

変化についてのお話をしていましたけど、「変化」という言葉を、積極的には使わないほうがいいということですか。

(土田) 心理屋の業界ジャーゴンになるのですけれども、「変化」というと行動変化のことを指してしまうのです。何か行動が変わりましたよ、というところまで求める必要はないのではないか。「新聞を読むようになった」とかいうことを見て、成果があったというのは、少し違うのではないかという気はします。

(木村<sub>浩</sub>) 行動変化ではなくて、では、「変化」ではなくて「心理的な変化」とか、そのくらいを明記しておいたほうがいいということですね。

(土田) それこそ、「お互いに理解できるようになった」というような表現で十分ではないかなと。

(木村<sub>浩</sub>) でも、文科省としては、変容を望む気がします。だから、逆に言うと、「変化」

「変容」という言葉を、この研究ではこう定義しているのですと言ったほうがいいのかもしれないですね。

—— 今までは、賛成派と反対派だったり、言いつばなしで終わりみたいなものが結構多かったですね。今回はそうではなくて、どうお互いが歩み寄れるか、どう越えられたかということが問題なのですね。越えるということは、ある意味で変化ですよ。だから、言葉の定義は私はよく分かりませんが、やはり何か変わったということ、本当に変わったのか、変わらないのか、変わらないことを含めて、どうなのかというのが成果ではないかという気がするのですよね。

(土田) 例えば親近感がわいたとか、考え方が分かったとか、そのくらいのことは、絶対に出てきますよ。だから、スポンサーにこういう成果がありましたというのは、無理やり出そうと思えば、出せる項目はあるのですが、それをもって変化と言うのか、というこだわりがあって。

(木村<sub>浩</sub>) なるほど。問題としては、学術的に「変化」というと、少し違和感があるというところですね。

(土田) そうですね。

(木村<sub>浩</sub>) だけど、いわゆるスポンサーに対しての要求は、十分満たせるだろうと、そういうことですね。

(土田) ちゃんと運営できれば。そこがメインだと思います。

(木村<sub>浩</sub>) はい。ありがとうございます。他はいかがでしょうか。

—— 文案についてなのですが、

(木村<sub>浩</sub>) 文案は次のテーマですが、そちらのほうが大きい話題ですのでそちらに移りましょうか。観察者の目的を達成するための条件は、分析しながらも常に立ち返っていかないといけないと思います。やはり研究の目的に関わってくる場所ですので、ですので、また成果なども見ながらやっていきますので。

今日やらなければいけないのは、文案とか、アンケートの基準とか、その辺りになりますので、もう時間があまりないので、最初は、参加者にお見せするフォーラムの目的として、この文案はいかがでしょうかということについてご意見をいただきたいと思います。

—— パッと見て、原子カムラを越えるために、と冒頭に出てくるわけですよね。何のために越えるのか、少しぼんやりするのですよ。越えるというのは、どういうことなの。何のために越える必要があるの。

(土田) 確かに、原子カムラのほうからの視点が残っていますよね。

—— そう、原子カムラのほうは、これを理解できると思うんですよ。

(土田) 原子カムラのムラびとが、「私たちも混ぜてよ」という気持ちがありありと出ていますね。

—— そう。市民のほうは何を考えているの、みたいな受け取り方をしないかなという心配がありまして。

(土田) 「原子カムラとは何なのか」、「一般の市民の方々に、原子力に携わっている方々がどう見られているのかを明らかにしたいと思います」とかで駄目ですかね。

—— 「皆さん、原子カムラって知っていますか？」とか。私だったら最初はそうしますね。原子カムラってご存知でしょうか。原子力に携わる方を、そう呼ぶ場合がありますね、とか。

(土田) 原子カムラという言葉聞いたことがない人には、やはり来てもらいたくないということですか。

—— そんなことはないけど。

(土田) いや、そこなのですよ。原子カムラって知っていますか。知りません。じゃあ、これは私は関係ないと。

—— ああ、なるほど。でも、「何だろう？」と思って、その後の目的を読んでも、「そういう専門家の集団のことを一般に言いますね。でも、一般の人たちと離れたところを、どうやって埋めるかということ、フォーラムを通して研究したいんです。その場に、あなたも参加しませんか。」みたいな形はどうかと思ったのですけれども。この「原子カムラ」という言葉の説明をしないで、冒頭でパッと出ると、もしかして「は？」って思う人もいるのかな、と思って。

(土田) そもそも論に戻って申しわけないのですが、こちらから「原子カムラ」というものを作っておいて、壁の向こうとこちら側で、この壁を取り払う作業をしましょうねということは、つまり、壁があることを大前提にして、この会を開きますということですよ。本当にそれでいいのかなという気もするのです。壁なんか感じていない人も、壁があるという前提で話さなければならないのね、ということになりそうな気がする。

—— でも、一般的に「原子カムラ」と言われているということは、だから一般的にそう言われているけれども、その検証をしたい、とか。

(土田) そうか。世間で言われていることはそうだけれども、と。

—— 集まったらなかったじゃないかという結論になるかもしれないということは、中では話は出たのですよね。ひょっとしたら、集まったらそんなことなかったという結論もあるかもって。

(土田) 本当に、それはありうると思います。

—— 私たちが聞くのは報道ですからね。話し合いの中で「原子カムラ」って聞いたことはないの。報道でよく言われている原子カムラ、とか言えば、ああ、そうだなって。

—— 聞いたことあるかなって。

—— 聞いたことあるかなって思うよね。ただ、それを聞いただけで、壁があるかどうかなんて、皆あまり思っていないと思う。

(土田) ノイジーな人たちや、報道関係者は、原子カムラと決め付けたがりますけれども、普通の人は無関心ですよ。あまりそういう考え方をしないでしょね。

どうなんだろう、私たちとは違うとは思うかもしれない。でも、その違いというのは、例えば東大の先生と私たちは違う、というのと同じレベルかもしれない。

—— でも、原子カムラの人たちで、原子力関係で利権をむさぼっているような、なんとなくそういうニュアンスは入っているのかな。そういうふうには報道されています。

—— なぜ越えなければならないのか。利権集団みたいなものであれば、市民側から見たら、そんなのは勝手にやれと。



(土田) そうでしょうし、原子力推進しようなんていう変な人たちのことは、もう閉じ込めておけと。やっと閉じ込めたと思ったら、なぜ話さなければいけないのかと、そういう発想はありえますね。

—— だから、なぜ壁を越える必要があるのか。結局、市民側にもメリットがないと、越える意味がないですよ。

(土田) 要は、原子力に携わっている人たちと、一般市民の人たちとの相互理解を深めるということでしょう。

—— そうそう。

—— それはいいね。

—— だから、「越える」と言わなければいい。

(土田) やはり、そういうきれいな言葉でいきませんか。原子カムラとか目立つ言葉ではなくて。

(木村<sub>浩</sub>) 分かりました。

でも、センセーショナルな導入というのは、よく、廃棄物のワークショップなどで、「ご存知ですか？」とかありますよね。そういう導入をこのアンケートで使うのはどうなのでしょう。例えば、アンケートのセットの中にそれがポンと入っていたら、「え？」って思いますか。

(土田) いろいろな政策をどう思いますかと聞いて、最後に党の宣伝文が入っているみたいな、そういうのもありますね。ああ、こういう下心ね、というのは、見えるじゃないですか。それは見せないほうがいいと思います。

(木村<sub>浩</sub>) では、この枠組みでやるなら、おとなしい文面にするということですね。それこそ、今言った相互理解とか、そういうきれいな言葉でわかりやすく書いたほうがいいのか。少しそれは検討しましょう。

—— 段取りの問題なのですが、フォーラムの参加者を募るときは、原則として 5 回とも必ず来てね、という言葉が入るわけですね。

(木村<sub>浩</sub>) そういうことです。

—— きついですね。

—— 500人の中から10人ですよ。

(土田) ええ。でも、選ぶのはできれば1割、50人ぐらいは残ってくれると選びやすいと思うのです。本当に10人しか来てくれなくて、偏った人ばかりとか、どうしようもないので。

—— 大丈夫でしょうか。まあ、今そんな議論しても仕方がないですが。

—— 5回の日時は、あらかじめ、何月何日と、最初に提示するわけですね。

(木村<sub>浩</sub>) そのつもりです。調査票を発送するときには、日にちも時間も決まっていて、場所も、少なくともこの近辺です、というまで決まっているという状態でやりたいとは思っています。

—— 対象は首都圏の方ですか。

(木村<sub>浩</sub>) 基本は首都圏です。

—— じゃあ、交通費の問題も。

(木村<sub>浩</sub>) そんなにないです。

本当は、専門家をどうするかが問題なのですね。専門家は全国調査なので。場所も限定してくると、かなり絞られる可能性はあるけど、東京に一番専門家が集中しているはずなので、分散を見るとそのはずなので、いいはずなのだけど、どうなるか分からないですね。でも、そこまでしても来たいという人はいるかもしれないですけどね。でも、そういう人はずいぶん極端な人だから、また最初の前提と変わってくる。

(土田) 専門家の分布を見て、分散がすごく小さいのであったら、同じ人ばかり集まったとしても、いいのではないですか。そういうことなのだから。

(木村<sub>浩</sub>) とりあえず文案のほうは、今日はこれ以上つめられないですけども、検討し

ます。もう少し柔らかい言葉で、インパクトがありながらも、宣伝になるようなものではなく、ということですね。

(土田) あとひとつだけ。「フォーラム」と呼ばれる仕組みを活用してというのは、いきなり出てくるのですが、「フォーラム」とは、というような注意書きがついていないと分からないということになるかもしれません。

(木村<sub>浩</sub>) はい。これは時間をかけずに書いたので、少し時間をかけて書きたいと思います。

—— 「いろいろな話題を対等な立場で話すことによって」の後に、「原子力の今後について協力して取り組んでいく基盤」の繋がりがどうも。我々はこちらでもう、少なくとも時間話し合っただけで共有しているからこれで理解できるのですが、まったく初めての人は、なぜそうなるのと思っちゃうので。

(土田) おっしゃるとおりです。分からないのと、それから、原子力やめるという結論に向かってはいけないのねという予断を与えないほうがいいと思います。

(木村<sub>浩</sub>) なので、最初は「原子力リスクの今後の対応に協力して取り組んでいく」と書いていたのですが、リスクを外したんですね。「今後の原子力」というと原子力をやりそうだけど、「原子力の今後」だったら、全てのスタンスが含まれるということで作っていません。

(土田) いや、つまり、原子力を協力して「取り組んでいく」だと、「やめないのですね？」ということなのです。で、一般の人の分布から言うと、原子力をやめたほうがいいという人の分布が多いので。だから、どちらにでもとれるようなぼやっとした聞き方をしておいたほうがいいと思います。

(木村<sub>浩</sub>) 「協力して考えていく」でいいですか。

(土田) 「原子力のことを協力して考える」。「いく」なんて言わないで。

—— それなら、反対派にすれば、いかにして潰していくかを考えるとも取れますね。だから、必ずしも推進側だけの表現ではないという気がします。

(土田) はい。一応、リクルートする文案としては、どちらも OK だということに見せ

ておかないとまずいですね。

(木村<sub>浩</sub>) この辺も少し考えて、我々のほうでやりたいと思います。

—— 専門家ですが、やはり 5 回出ていただくことを重視するのであれば、首都圏周辺というある程度のウエイトは与えたほうがいいのかなど。毎週土曜日こちらに出てくるといのはやはり大変な負担になるのかなど。そうすると出てこなくなって。

(土田) 首都圏は、50 キロ圏でしたっけ。30 キロでしたっけ。

(木村<sub>浩</sub>) 市民は首都 30 キロ圏です。今の話は、専門家です。

(土田) ああ、専門家か。いや、来るというならいいのではないですか。自腹切っても来るという人であれば。あるいは自腹でないにしても、移動の時間を捻出できるという人であれば。

(木村<sub>浩</sub>) その辺は、選択のところなので、次回以降いろいろところで意見を伺うチャンスはあるかなと思います。今日は、残り 10 分になっていますので、このアンケートの部分は確定しておきたいのと。

フォーラムの日取りについては、フォーラム検討グループのほうで確定をしてしましますので、それは後で皆さんにお知らせということでもいいですか。何か気をつける必要があるところがあれば。今のところは、月 1 回とか、3 週間に 1 回とか、そのくらいのインターバルで 5 回ということで、できれば上半期に終わらせると考えています。

(土田) 第何土曜日みたいな形で決めておいたほうがいいですね。

—— 確かにフォーラムのメンバーというのは、曜日とか時間帯とかで限定できるのですよね。集まれる人を限定できるから。

(木村<sub>浩</sub>) その辺は、また我々でお話しましょう。

それでは、アンケートについてですが、まずは、これでいかがでしょうかという話。基準との関係も含めて、少しご意見をいただければと思います。

—— アンケートの Q7、「原子力発電の利用について、安心ですか」という聞き方はおかしいのではないですか。

(木村<sub>浩</sub>) これは継続項目なので、変えにくいです。

(土田) 本調査票と同じにしておかないと、分布が比較できないので。

(木村<sub>浩</sub>) 今まで、これで理不尽なことは特に起こっていないので、特に問題ないと思います。

—— おかしいかもしれないけど、分かりやすいでしょう。

(土田) 6年もやっているとおっしゃるようなことは多々出てきているのですよ。制度疲労は起こっているのです。でも、10年くらい経たないと改善できない。

—— よほどのことがない限りは踏襲するという方針だから。

(木村<sub>浩</sub>) 他はいかがでしょうか。選択の仕方とかでも構いません。

(土田) 一般の人は、性、年齢と、賛否ぐらいですよ。だから、Q1、Q2、Q6 ですよ。たぶんそうでしょうね。あとは、1つのカテゴリーにたくさんいるようであれば、他の項目を参考にしながら。

(木村<sub>浩</sub>) そういうことです。

—— それから、Q6～8は、専門家では分布が取れないだろうという見解がありましたが、福島以前は確かに取れませんでした。福島以降はある程度取れています。

(木村<sub>浩</sub>) でも、割合としてはそこまでではない。やはり1割くらい。

(土田) あれは一時的に昨年度だけかもしれない。今回の1月にはまた戻ってくるかもしれない。どちらだろうなと思っているのですけどね。

(木村<sub>浩</sub>) 専門家のほうも、Q6でグラデーションが出てくるのだったら、使えるかもしれないけれども。

—— グラデーションが出てこなかったら別のものを選ぶのでしょうかね。

(土田) 福島の直後でさえ、7割が賛成ですからね。たぶん出ないと思います。

(木村<sub>浩</sub>) 他は大丈夫ですか。注意しておいたほうがいいこととか、こういうことも起こりうるのではないですかとか。

(土田) 専門家の職業のこの聞き方(Q4)は、おかしいですね。別の調査では、研究者か、技術職か、事務職かというような聞き方をしていることもありました。さらに割るなら、教育職も兼ねている研究職か、そうでないのか。あるいは、行政機関なのか、民間企業なのかどうか。それを組み合わせたような聞き方のほうが、たぶん、フォーラム参加者を選ぶならいいのではないかと思います。

(木村<sub>浩</sub>) 専門家のQ4は変ですね。Q4に関しては、あとで文案をください。

—— 原子力の専門家は、原子力の専門家としてフォーラムに参加するわけではないのですよね。

(木村<sub>浩</sub>) そうです。

—— そこを明記しておかないと、原子力の専門家としてフォーラムに参加しようとするかもしれませんね。

(土田) ええと、原子力ムラの住民なので、だから専門家の定義ですけどね。だから、原子力学会の会員を専門家と定義したということになりますよね、この研究では。

—— この研究ではね。それはそれでいいんです。

(木村<sub>浩</sub>) 勧誘するときに、こういうスタンスで参加してくださいとお願いをするということですか。

—— あえて明記するか、言わないで専門家として呼んでしまうか。

(木村<sub>浩</sub>) いや、専門家としては呼ばないです。専門家だから説明してくださいとか、そういうのではないですから、そういうふうには呼びません。

—— ムラの住人は、原子力学会会員に限定ですか。

(木村<sub>浩</sub>) そうです。

(土田) つまり、名簿がそれしか取れないので。技術的にそこに限定です。

—— 典型的なムラの住人だけど、技術屋ではないという人は結構いますよね。

—— 前回、その議論はやったのです。学会員以外は、とりあえず今回は省こうということにしました。

(土田) 諸葛先生流に言えば、電力会社の取締役あたりが一番のムラびとだけど、あの人は学会員になっていないはずですね。

(木村<sub>浩</sub>) だから、サイクル1をやってみて、この方法では、特にムラ側は分布があまりにというのであれば、今回はそれを課題として挙げておいて、サイクル2では、討論型世論調査とはまったく違う方法になるけれども、ムラのほうのチョイスは恣意的にやるほうが効果的であると考えられるのであれば、そのようにする、と変えたいと思います。

そうすれば、今度は学会員に限定しなくてもチョイスできる可能性がある。より交渉は難しい気がしますけど。交渉の成功率を上げるためにも、ある意味では、1回やってみて、こういう成果が出ましたというのが公開されていると、やりやすいかなという気もしています。イメージが付きやすいから。

(土田) 組織に説明もしやすいでしょう。

—— Q9 ですがけれども、私は、自分の気持ちに当てはまるのが意外と見つけられなくて。私は、原子力に携わっている人たちに対しては、ご苦労様なことですね、と思っているのですが。好感ではなくて。そういう人はどうしたらいいのでしょうかね。

(土田) 「原子力に携わっている人は、大変な仕事をしていると思う」。

—— そういう感じです。

(木村<sub>浩</sub>) それは追加すればいいのではないですか。

(土田) あるいは「大変なご苦労をしている」もありますけど、ちょっとやりすぎかな。

—— 好感を持っている、ではない。

—— 大変というのは 2 つあって、仕事がつくて大変なのか、日常の仕事は大したことではないけど、立場が大変なのか。

(土田) それは分けますか。

—— でもそれを全部含んで、

—— でも、好感ではないんだよね。

—— 好感ではないのですよ。でもそこに、大変なことをして、その中に少しの、少しという言葉も変だけど、感謝の気持ちと、同情する気持ちとか、その中で一生懸命やっているのだから、分かっていますよと言いたい気持ちと。そういうものが混ざったような。それが、ご苦労様ですねということです。

—— 経営者というところではなくて、本当に今回の事故でご苦労された方には、やはり私たちは、好感を持っているかどうかは別としても、本当にご苦労様っていうのはありますよね。

(土田) ではこうしますか。「原子力の現場ではたらいっている方々は、大変にご苦労をされていると思う」。

(木村<sub>浩</sub>) 「現場で」と入れたほうがいいですか。

(土田) 上の人たちは違うと言っているから。

—— 同じ言い方でいいですよ。「原子力に携わっている人たちは」でいいです。

(木村<sub>浩</sub>) その辺は、こちらでも引き取れますので、アンケートグループで引き取りたいと思います。

—— 今聞いただけでもいろいろあるので、「その他」を入れたほうがいいと思います。

(木村<sub>浩</sub>) その他は、本調査票のほうには入れているのですが、スペースの関係で、こちらは外しています。

(土田) この質問は聞き方を変えて、別紙調査では丸をつけてくださいにして、本調査



票のほうはスケールで聞いて。スケールにすればその他が入りますから。

—— 次回以降で結構なのですけれども、次の段階で、成否を決めるのはファシリテーターだと思うのですよね。ファシリテーターの人数はどうするか、人選はどうするか。そのファシリテーターに要求するタスクは何なのか。どういう人が出た場合に、どのように仕切るかというのは、次の会合のときに、じっくり検討していただければ。

(木村<sup>浩</sup>) はい。今はとりいそぎ、12月末までの調査に間に合わせなければいけないので、ここをやっていますけれども、それが終わって一段落したら、フォーラム検討グループも来年の頭に、丸一日かけてディスカッションをして、実際にどうフォーラムを運用していくかという部分を検討します。

このプロジェクトとしても、今年度は、来年度どのように動かしていくのかということ、ある程度マニュアルみたいなものを作るということを宣言していますので、そのディスカッションを、次回になると思いますけれども、ぜひいろいろご意見いただければと思います。

—— 練習をやるのも面白いですね。

(木村<sup>浩</sup>) それをやるのも面白いかなとも思いますよね。練習しましょうか。

—— このメンバーの中で、専門家と、市民に分けて。

(木村<sup>浩</sup>) はい。それでは、選抜方法としては、これもまた次回、実際に選抜するときにもう1回議論が出るとは思いますけれども、まあ、少なくともこのアンケートとしては、こういう形でやりたいと思います。

あと、勧誘の文面に関しては、少し考えますので、メールベースかもしれないですし、急遽もう1回ミーティングを願いますかもしれないですけれども、それでお願いをしたいと思います。

ということで、だいたい時間にもなりましたし、話したいことは以上ですけれども、何か言い足りなかったはございますか。

—— やはり、この文案が勝負になるとは思います。気になるのは、「原子力を含みながらもその他のいろいろな話題」というのがあって。私の最初のイメージは、いろいろな話題のほうは原子力よりも多いのではないかと思っていたのですが、含みながら、だからいいのか。いろいろな部分を多くするのですよね。

(木村<sub>浩</sub>) はい。だから、原子力を含みながらも、いろいろな話題を、なのですけど。一応、その他のほうが多いですという設定ではいるのですが、分かりにくいのであれば、この辺りも含めて考えます。

#### 4. その他

(木村<sub>浩</sub>) それでは最後に次回以降の日程を確認します。

次回は、2月20日15:00~18:00ということになります。第4回は3月末にあります。

実は明後日、外部評価委員会ということで、我々はその間に出席してまいりますので、皆さんからこういう意見ももらっていますということも、合わせてご報告したいと思っています。

ということで、これで第2回の業務推進全体会合終わりにしたいと思います。どうもありがとうございました。

以上